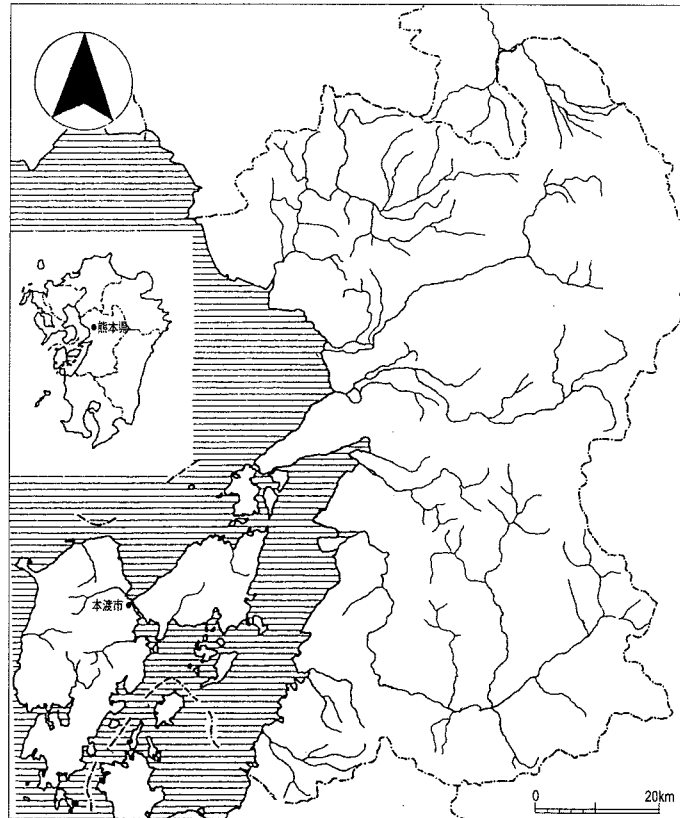


熊本県本渡市文化財調査報告書 第8集

本渡北小学校プール遺跡調査報告書

(平成7年度 本渡市立本渡北小学校プール改築事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書)



1998年3月

熊本県本渡市教育委員会



本渡北小学校プール遺跡

本渡北小学校全景正門側



調査状況 1 工区



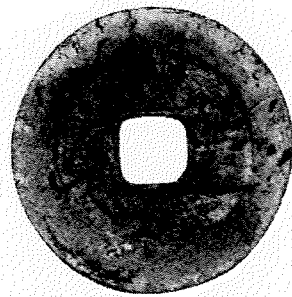
調査状況 2 工区



出土遺物 縄文時代の石器 石鏃・剥片石器・磨石・石斧



青銅器（用途不明）

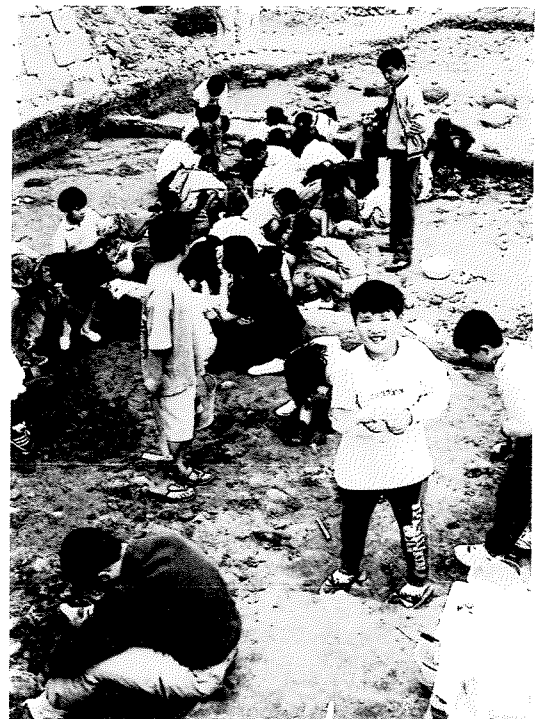


中国銭「至元通寶」



昭和40年、旧プール建設時に児童の作業として運ばれた石

口絵 2



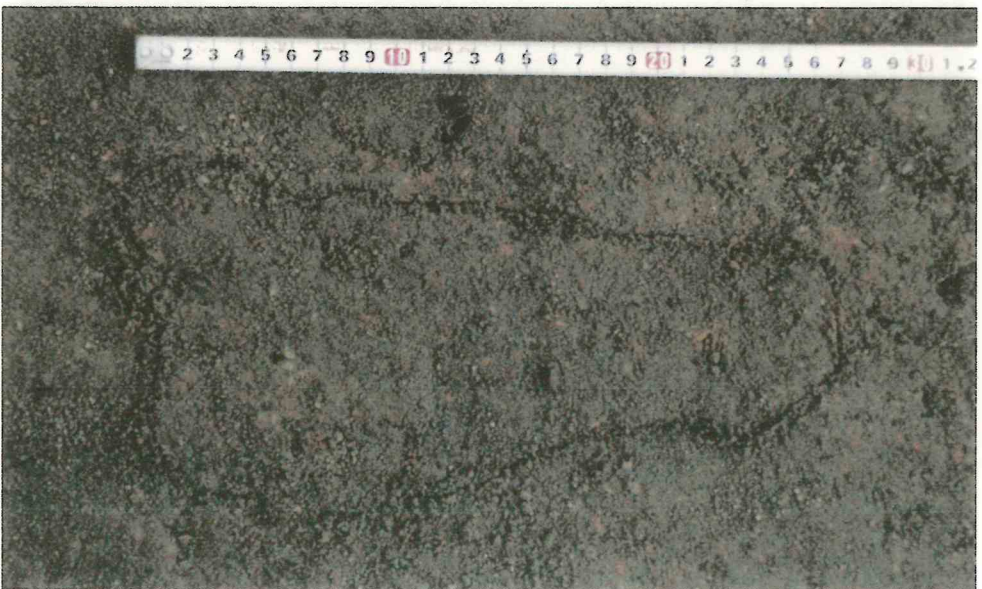
体験発掘風景（平成7年10月28日）



1 工区土層



2 工区 古代水田検出状況



古代水田足跡検出状況

序 文

私たちの本渡市には、数多くの文化財が点在しています。これらの文化遺産は、私達の祖先によって生み出され、保存されてまいりました。土中に埋もれている埋蔵文化財につきましても、開発事業により影響を受ける場合は、調査を行い、記録として残すことに致しております。

このたび、本渡市立本渡北小学校プール改築事業に伴い、建設地域内の埋蔵文化財発掘調査を実施致しました。調査につきましては、熊本県教育庁文化課の指導を受けて本渡市教育委員会文化係が担当いたしましたしております。

発掘調査は、珍しそうに作業を見つめる子どもたちの前で和やかに実施されました。特に、二度にわたって開催いたしました現地説明会には、100名の児童が参加し、熱心に耳を傾けていました。また、体験発掘では瞳を輝かせ、地中より遺物を発見するたびに大きな歓声を上げていました。現在の生活を支える「足下に埋もれた歴史」を肌で感じ、受けとめてくれたのではないかと思います。今回の発掘調査では、「文化財は市民共有の財産である」ことを改めて認識した次第です。今後、このような発掘調査におきましては、調査現場を公開する等の対応により多くの方々に御見学いただき、郷土の歴史や文化財に対する理解を深める機会となる事を願っております。

本渡北小学校プール遺跡からは、平安時代の水田や水田に残る足跡が確認されました。海岸付近の厳しい環境での水稻栽培を想像するとき、祖先の流した汗の貴さを感じます。

本報告書が広く市民各位の文化財保護への理解と認識を深める一助となり、また学術研究の分野におきましても貴重な資料となれば幸いです。発掘調査から遺物整理に至るまで、御協力と御指導・御教示賜りました関係各位、本渡北小学校に対し、深く感謝申し上げます。

平成10年3月31日

本渡市教育委員会

教育長 小田原 満

例 言

- 1, 本書は、本渡市立本渡北小学校プール改築事業に伴い発掘調査を実施した、埋蔵文化財の発掘調査報告書である。
- 2, 調査は熊本県教育庁文化課の指導を受けて、本渡市教育委員会が実施した。
- 3, 本発掘調査は、本渡市教育委員会庶務課（当時）と文化課（当時）が、協議して実施した。
- 4, 本発掘調査のうち遺構実測・撮影については、文化課文化財係（当時）平田豊弘が担当した他、遺物実測・製図については一部を業務委託した。
- 5, 出土遺物は、本渡市教育委員会で保管している。
- 6, 本発掘調査のうち植物珪酸体（プラント・オパール）分析については、業務委託した。
- 7, 本書は、本渡市教育委員会文化生涯学習課文化係（現在）平田が執筆・編集した。

目 次

口 絵1 本渡北小学校全景（正門側）・調査状況1工区・調査状況2工区	
2 出土遺物 縄文時代の石器・青銅器・中国銭・昭和40年旧プール建設時に児童の作業として運ばれた石・体験発掘風景	
3 1工区土層・2工区古代水田検出状況・古代水田足跡検出状況	
序 文	
例 言	
目 次	
第1章 はじめに	1
1, 調査にいたる経過	1
2, 調査組織	2
第2章 遺跡の位置と歴史的環境	5
1, 遺跡の位置	5
2, 遺跡の歴史的環境	5
第3章 遺跡の概要と層位	7
1, 遺跡の概要	7
2, 遺跡の層位	7
第4章 遺構	7
1, 水田遺構	8
2, 道路	8
3, その他の遺構	13
第5章 遺物	14
1, 縄文時代の石器	14
2, 弥生式土器	15
3, 土師器	15
4, 須恵器	24
5, 黒色土器・瓦質土器	25
6, 陶 器	26
7, 磁 器	26
8, その他	26
遺物観察表	31
第6章 まとめ	35
1, 本渡北小学校プール遺跡調査成果	35
2, むすび	35
本渡北小学校プール遺跡における植物珪酸体（プラントオパール）分析	36
表① 本渡北小学校プール遺跡の植物珪酸体（プラントオパール）分析結果	38
図① 本渡北小学校プール遺跡3C区土層断面の植物珪酸体分析結果	38
写① 本渡北小学校プール遺跡3C区土層断面の植物珪酸体顕微鏡写真	39
報告書抄録	41
図版	43
あとがき	52
奥付	53

挿図目次

第1図	本渡北小学校プール遺跡周辺の遺跡分布図	3
第2図	本渡北小学校配置図	4
第3図	本渡北小学校プール遺跡調査区域図	6
第4図	本渡北小学校プール遺跡遺構図	9・10
第5図	古代水田足跡図	9・10
第6図	本渡北小学校プール遺跡土層図	11・12
第7図	出土遺物実測図 (縄文時代の石器)	14
第8図	出土遺物実測図 (弥生式土器)	16
第9図	出土遺物実測図 (弥生時代の土師器)	17
第10図	出土遺物実測図 (古墳時代の土師器)	18
第11図	出土遺物実測図 (古代の土師器1)	19
第12図	出土遺物実測図 (古代の土師器2)	20
第13図	出土遺物実測図 (古代の土師器3)	21
第14図	出土遺物実測図 (古代の土師器4)	23
第15図	出土遺物実測図 (古墳時代の須恵器1)	27
第16図	出土遺物実測図 (古墳時代の須恵器2)	28
第17図	出土遺物実測図 (古墳時代の須恵器3)	29
第18図	出土遺物実測図 (黒色土器・瓦質土器・陶器)	29
第19図	出土遺物実測図 (磁器・その他)	30

図版目次

第1図版	①1工区SK1 調査状況	⑤1工区古代水田遺構	45
	②1工区SK1 遺物出土状況 No.7	⑥1工区古代水田より遺物出土状況 No.12	
	③1工区SK1・SX1 完掘状況	⑦1工区古代水田下層状況	
	④1工区発掘作業状況	⑧1工区古代水田完掘状況	
第2図版	①2工区遺構検出状況	⑤2工区古代水田遺構	46
	②2工区古代水田検出状況	⑥2工区古代水田遺構	
	③2工区古代水田発掘作業状況	⑦2工区古代水田道路遺構	
	④2工区古代水田下層発掘状況	⑧2工区古代水田完掘状況	
第3図版	①2工区SX2 検出状況	⑤2工区遺物出土状況 No.90	47
	②2工区SX2 完掘状況	⑥2工区遺物出土状況 No.104	
	③2工区SX3 検出状況	⑦2工区遺物出土状況 No.22	
	④2工区SX3 流木出土状況	⑧2工区遺物出土状況 No.51	
		⑨本渡北小学校正門駐車場土層	
第4図版	弥生式土器		48
	土師器 弥生時代の土師器		
	古墳時代の土師器		
第5図版	土師器 古代(奈良・平安)の土師器		49
第6図版	須恵器 古墳時代の須恵器		50
	古代(奈良・平安)の須恵器		
第7図版	黒色土器・瓦質土器		51
	陶器 磁器 その他		

第1章 はじめに

1 調査にいたる経過

天草は熊本県南西部に位置し大小120余の島々よりなり、東は不知火海（八代海）を隔てて八代平野と、北は島原湾を隔てて島原半島と、南は鹿児島県の長島や獅子島と接している。島の総面積は880km²で、2市13町に行政区分されており約154,000人の人々が生活している。気候は温暖で、植生は暖帯の照葉樹林帯であるが、低山性の丘陵と海が接する地形は、平地に乏しく、大きな河川は発達していない。本渡市は、この天草群島の中で最大の天草下島と二番目に大きい上島にかけて広がる行政体で、天草における産業、経済、交通、文化の中心的役割を担う中核都市である。

現在、本渡市における教育環境整備が促進されつつあるが、本渡市立本渡北小学校においては、施設の老朽化に伴い、プール改築事業が実施されることになった。この建設予定地は、埋蔵文化財の所在が指摘されており、工事の進捗に合わせ文化財調査を実施することになった。調査の経過は、次のとおりである。

- 平成7年1月5日 本渡北小学校プール改築事業予定地周辺の遺跡調査について（依頼）
- 7年4月26日 工事予定区域試掘開始
- 7年4月28日 工事予定区域試掘終了
- 7年5月8日 文化財の確認調査結果について（通知）
- 7年5月18日 本渡北小学校プール建設予定地発掘調査打合せ会議（庶務課・文化課）
- 7年5月25日 本渡北小学校プール改築事業に伴う埋蔵文化財発掘調査計画確認
- 7年5月29日 埋蔵文化財発掘調査について文化財保護法に基づく通知
- 7年7月24日 1工区調査開始
- 7年7月28日 熊本県教育庁文化課山下義満主事による調査指導
- 7年7月29日 天草考古の会平岡勝昭代表による調査指導
- 7年8月1日 現地説明会開催（北小学校児童による体験発掘）
- 7年8月12日 1工区調査終了、出土遺物洗浄
- 7年9月25日 2工区調査開始
- 7年10月28日 現地報告会開催（北小学校児童による体験発掘）
- 7年10月29日 2工区調査終了、出土遺物洗浄
- 7年11月23日 本渡東中学校後藤貴美子教諭による出土遺物接合指導
- 7年12月1日 出土遺物実測業務委託
- 8年1月5日 地形測量終了、調査終了
- 8年1月8日 埋蔵物発見の届出
- 8年3月25日 出土遺物実測業務成果品納品
- 8年3月28日 本渡北小学校プール遺跡発掘調査概要報告書提出

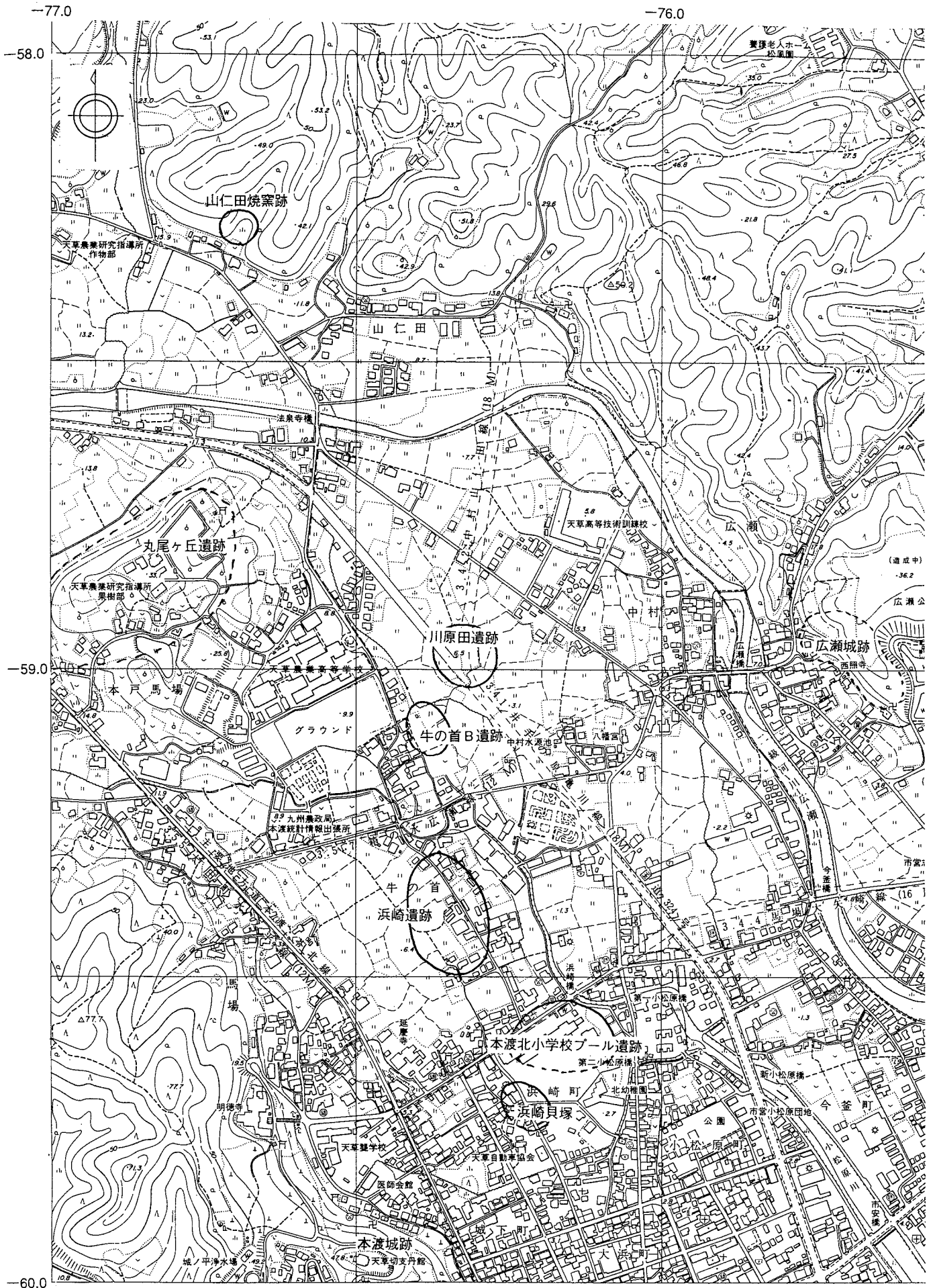
2 調査組織

本渡北小学校プール遺跡の発掘調査は、熊本県教育庁文化課の指導のもと、本遺跡周辺で遺物を採集されている福岡市教育委員会文化財部山崎純男氏、本渡市文化財保護委員黒木雄二氏、県文化課島津義昭氏・山下義満氏、天草考古の会代表平岡勝昭氏の教示を受け本渡市教育委員会が実施した。発掘調査については、本渡市教育委員会庶務課（事業担当）と文化課（調査担当）が協議して実施した。なお、組織は発掘調査当時のものである。

調査原因	本渡北小学校プール改築事業
調査名称	本渡北小学校プール遺跡発掘調査
遺跡名称	本渡北小学校プール遺跡
調査面積	600m ² （発掘面積 450m ² ）

－組 織－

教育委員会	教 育 長	小田原 満			
庶務課	課 長	久保 年男			
	施 設 係	江崎 啓造	久田 琢磨	宮本 諭	
文化課	課 長	山本 忠雄			
	文化財係	森山 滝夫	平田 豊弘（調査担当）		
作業員	井上 梅子	田中フクエ	樋口トミエ	福島ミツエ	福島シゲコ
	花井 智子	梅本千鶴子	城下ツタエ	鳥羽瀬ゆりこ	
遺物洗浄	井上 梅子	田中フクエ	樋口トミエ	福島シゲコ	梅本千鶴子
	城下ツタエ	鳥羽瀬ゆりこ			
遺物整理	浦島 淑子	岩下恵理子	荒平 孝子		
遺物実測	埋蔵文化財サポート株式会社				
花粉分析	株式会社 古環境研究所				
調査指導	熊本県教育庁文化課	島津 義昭	山下 義満		
	福岡市教育委員会	山崎 純男			
	本渡市文化財保護委員	金沢 武昌	仁田 長政	木山 惟彦	黒木 雄二
		酒井 邦子			
	熊本県文化財保護指導員	明瀬 忠幸	高田 尊徳	岡部 親司	鶴田 倉造
	天草考古の会代表	平岡 勝昭			
	本渡東中学校教諭	後藤貴美子			
調査協力	本渡市立本渡北小学校				



第1図 本渡北小学校プール遺跡周辺の遺跡分布図

第2章 遺跡の位置と歴史的環境

1 遺跡の位置

本渡北小学校プール遺跡は、熊本県本渡市浜崎町3番55号に所在する。

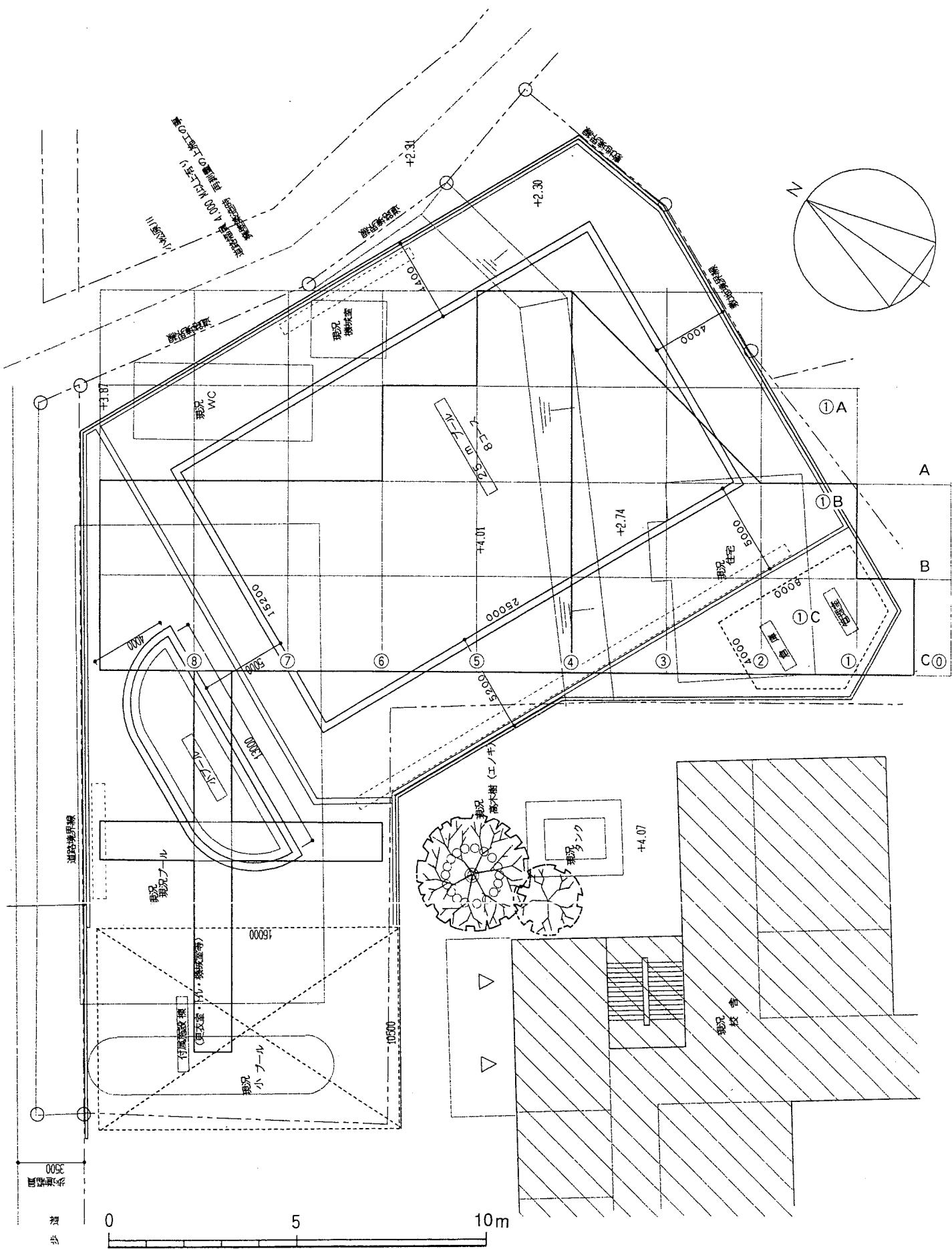
本渡市は、九州西方の東シナ海、有明海および不知火海に囲まれた天草諸島の中央部に位置する。市域は、本渡瀬戸海峡を挟んで天草上島の西部と天草下島の東部に広がる。総面積は、144,57 km²で、天草諸島 874,93 km²のおよそ6分1である。市の東は、上島の志柿・下浦地区で、東部の標高 250 m程の低山地を境界として有明町および栖本町、西は下島中央部の柱岳・角山矢筈岳などの標高 500 m前後の山地を境界として苓北町および天草町・河浦町、南は大宮地山稜で新和町、北は標高 100 m以下の低い丘陵で五和町と接している。天草の地形は、ほとんどが低山性山地で、山がすぐに海に迫るリアス式海岸であり、河川に沿って小平野が海沿いに点在している。近世以前の天草では、この河川ごとに形成された小平野がそれぞれ独立した村落を形成していたと考えられる。市内には、広瀬川、町山口川、亀川、方原川、小手川、江川などの小さい河川が流れるが、この河川に沿って集落が営まれている。

本渡北小プール遺跡は、町山口川と広瀬川の間位置し、西から東にかけて延びる低山地の裾にあたる標高 7 m程の平地が東へ延び、海岸段丘から海につながる標高 2 mほどの地点に所在する。現在は、近世以来の干拓により、平野部が東へ広がり市街地を形成しているが、近世以前においては、この標高 2 m程までの地が海岸線としての地形であったと推測される。遺跡はいわゆる波打ち際での古代から中世の土地利用を示すものである。

2 遺跡の歴史的環境 (第1・2図)

本渡市では、旧石器時代より連綿と人々の生活が営まれている。この時代の遺跡としては、¹⁾丸尾ヶ丘遺跡、妻の鼻遺跡の2遺跡が周知されているが、踏査や調査が実施される中、²⁾菅原遺跡、³⁾檜の木遺跡などの遺跡も明らかになった。

縄文時代になると遺跡数を増し、現在 52 遺跡が確認されている。遺跡の分布を見ると、海岸まで迫った山地を流れる小河川流域の段丘上に分布する遺跡群と、内湾した海岸部の平地や海底に分布する遺跡群に大別される。この分布パターンは、天草諸島における遺跡分布の状況と一致している。特に広瀬川流域では、川口近くの下流域に遺跡が集中し、中流域から上流域まで分布している。本渡北小学校周辺には、浜崎貝塚、浜崎遺跡、牛の首遺跡がある。弥生時代の遺跡についてはその数が激減し、詳細については不明である。古墳時代になると、地下式板石積石室墓や箱式石棺の構造の墳墓群や横穴式石室の円墳、横穴墓が築造される。これらは、海岸に面した標高 20 mから 30 mの岬に位置している。今回の調査主体となる、古代(奈良時代・平安時代)の遺跡についての詳細をまとめた資料は無く、古記録も大変少ない。中世の様相を伝える遺跡として、⁴⁾浜崎遺跡がある。本渡北小学校プール遺跡は、少量の石器類と弥生式土器、奈良時代、平安時代、鎌倉時代の遺物が出土するが、⁵⁾浜崎貝塚、浜崎遺跡と連なるこの地域一帯での、人々の生活と歴史的経過を示す遺跡である。



第3図 本渡北小学校プール遺跡調査区域図

第3章 遺跡の概要と層位

1 遺跡の概要 (第3図・口絵1)

本渡北小学校プール遺跡は、標高2mほどの海岸段丘が落ち込んだ地形に位置する。東には、近世の干拓によって開けた土地に市街地が形成されている。横には、北から南に流れる小松原川が流れるが、満潮時には海水が上がり潮位は1m 50cmに達する。近世以前においては、海岸線を形成していたものと推定される。調査は1工区として、旧校長住宅地跡、2工区として昭和40年建設のプール跡地の発掘調査を実施した。

遺跡は、礫と粗砂利の堆積によって形成された海岸丘にあり、水田と道路遺構が確認された。また、水田遺構では、基盤層に踏み込んだ足跡に、灰色の砂が流れ込んだため、踏み込み跡が残り、足跡として確認された。道路と水田の間では、水溜まり状遺構や不定型の掘込み遺構が確認された。水田は、平安時代の遺構と考えられる。

2 遺跡の層位 (第6図・口絵3)

土層は調査地点によって若干異なるが、層位は下記に示すとおりである。

1工区 水田部 道路部

第1層 表土 現代の工事により攪乱

第2層 昭和30年代に造成した埋土

第3層 近世から近代にかけての水田

第4層 近世から近代にかけての水田の基盤層

第5層 灰黒色砂質層 (古代水田)

第7層 茶灰色粘土層 (道路上面)

第6層 灰色粗砂層

第8層 黄色礫層

第10層 茶褐色礫層

第9層 灰色礫

2工区 水田部

第1層 近世から近代にかけての水田

第2層 近世から近代にかけての水田の基盤層

第3層 茶色粘土層 (中世水田)

第4層 黒色小礫混粘土層

第5層 黒色砂質層 (古代水田)

第6層 灰色砂層 (流れ込み)

第8層 黄色粘砂層

第7 a層 茶灰色粘土層 (道路上面)

第9層 灰色砂利層 (粗砂層)

b層 茶色灰色混砂礫層

第10層 茶褐色礫層

第4章 遺構

本渡北小学校プール遺跡は、標高6mほどの海岸丘陵（段丘）が落ち込み海岸と接する地形の、標高2mほどの海岸礫上に所在する。本遺跡は海岸に接する水田遺構で、幅の広い道路と水田水口、水田が検出されている。遺物は、水田遺構を基準に水田に流れ込んだと考えられる灰黒色砂層、平安時代の水田耕作面、水田期前の粗礫層より出土している。出土した遺物は、流れ込みのため激しく磨滅を受けている。現在の校舎一带を中心として、集落遺跡が存在することは確実である。これを裏付ける遺構として、正門付近の削平において土壌を確認している。

1 水田遺構（第4・5図 第1・2図版）

水田遺構は、灰色の砂質土を耕作面とする。年代的には、出土遺物との関連より平安時代の水田と考えられる。現代の水田と比較すると、極めて土質が悪く生産量も極めて低いと思われる。西側からの山の流水を利用した水田経営で、丘陵を通過した水を引き込む形態となっており、小規模の水田である。天草島の小さな入江で、現在も見ることのできる景観と同じように遠浅の海岸線と接する、葦などが繁茂する横での稲作であったと思われる。写真1は、本渡市亀場町における海岸沿いの水田で、川の水が淀む中に葦が繁茂する場所水田を営んでいる。葦原は畦道として利用されており、本遺跡の環境と類似する。これらの水田は、堆積した砂質土を耕作しており、平野部での水田経営と比較すると劣悪な環境であると言える。遺跡における水田経営と周辺の植物様相については、後述する植物珪酸体（プラントオパール）分析からも、うかがうことができる。サンプル土は、2区水田、写真2の状況で採集した。なお、水田内において作業中に踏み込んだ足跡が確認された。足跡の大きさにより、大人と子供と区分することは、足の踏み込む方向や水田の状況などにより変化することから、断定することは困難である。本遺跡の水田中より検出した足跡は、大型（26cm）で規則性のある足跡が複数、小型（16cm）（12cm）で規則性のない足跡が複数確認された。大型の足跡は、水田の北から南に向けて歩行しており、小型の足跡は東から西に向かっているが、歩幅が不規則である。



写真1

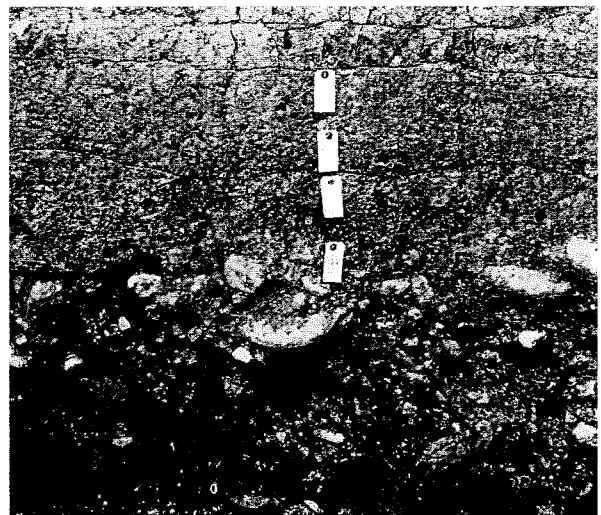
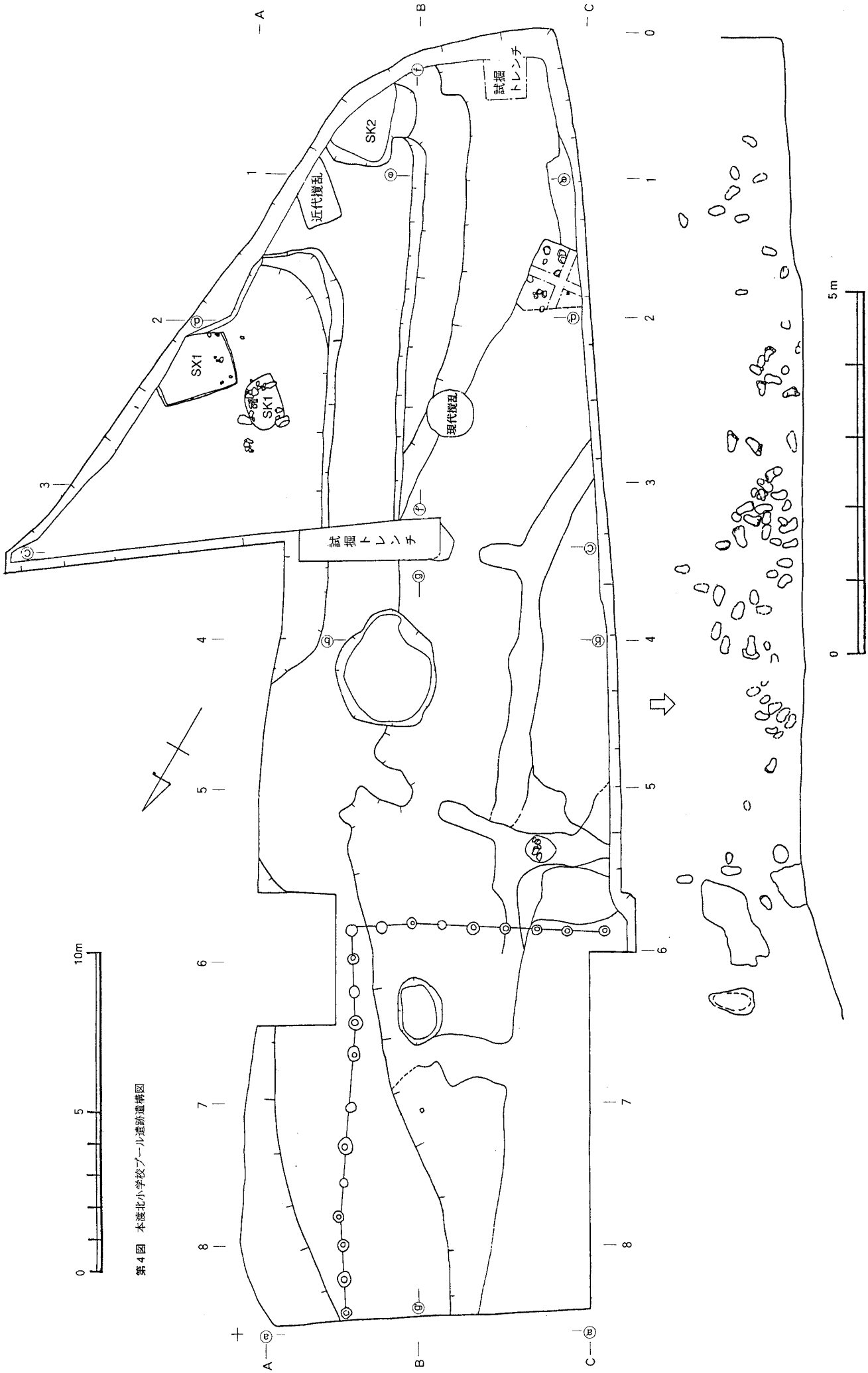


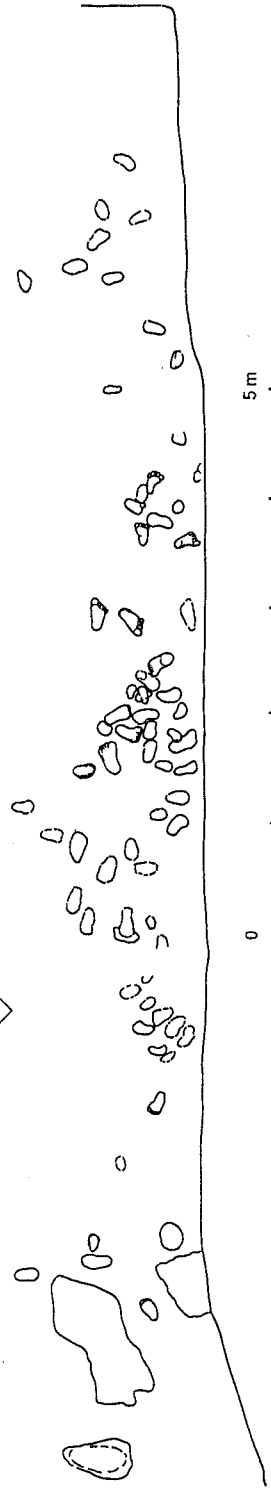
写真2



第4図 本渡北小学校プール遺跡遺構図



第5図 古代水田足跡図



2 道路 (第4・5図 第1・2図版)

水田の海岸側に沿って、幅⁹⁾2 m程の道路を確認した。^{10) 11)}段丘からの落ち込んだ湿地地域一帯は、水田として利用し水路確保したものと推測される。海岸側は、海岸の塩水の影響を防ぐための効果と地形を利用し、道路としたものと考えられる。なお、水田と道路の区切りは明確ではなかった。道路は南から延び、遺跡の北側で西に曲がっている。現在、遺跡の北側には市道が東西に走るが、昭和初期頃までは同じ方向の小川が流れていた。¹²⁾江戸時代の絵図にも道と小川が記されており、川に沿った道が存在したと考えられる。

3 その他の遺構 (第4図・第3図版)

1区SK1は、長軸1 m 70 cm、短軸1 m 10 cm、深さ30 cmを測る。楕円形を呈し、土師器を中心に遺物が出土した土壌である。SX1は、2 m 60 cm、深さ32 cmを測る。歪な方形を呈すると思われ、少量の土師器が出土する。

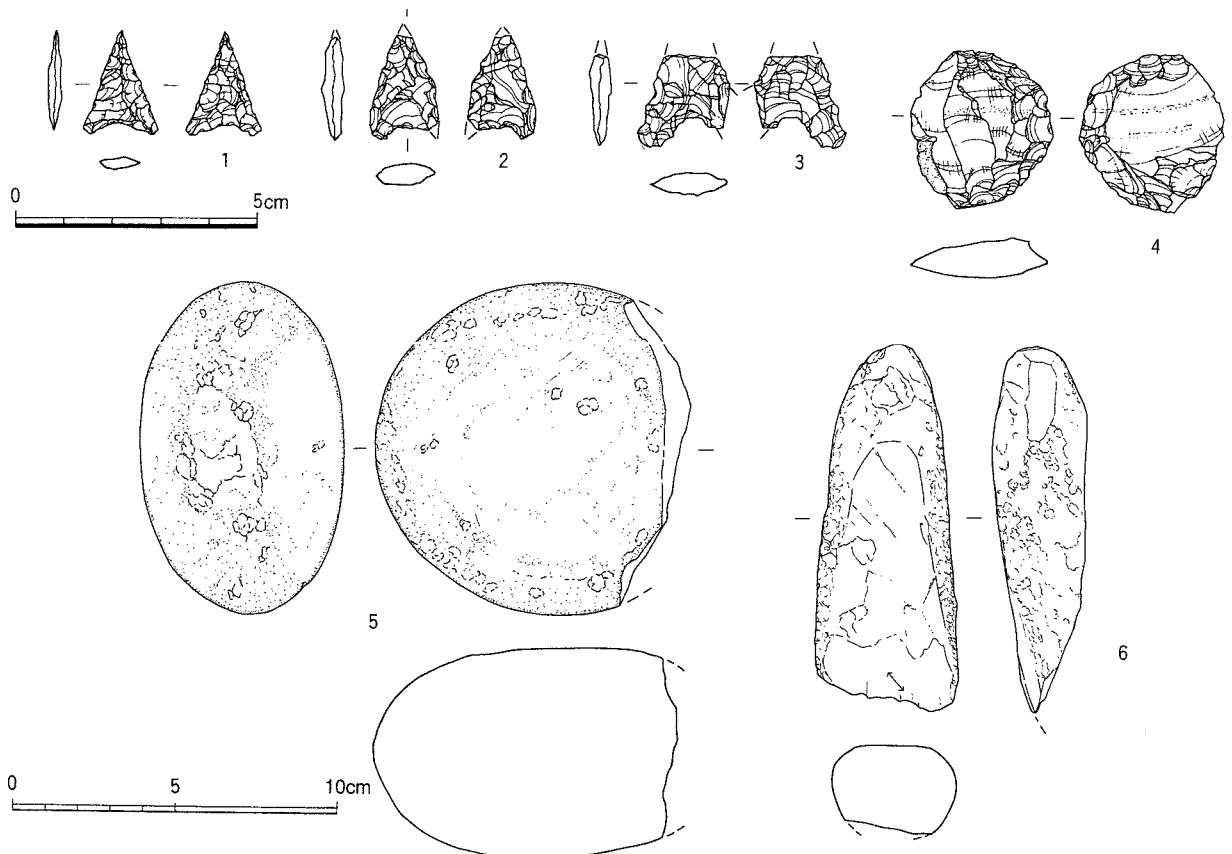
2区SX2は、大きな掘り込み状の遺構である。歪な楕円形を呈し、長径3 m 72 cm、短径2 m 24 cm、中心部の深さ48 cmを測る。遺構内には、頭大の石が配されているが、規則性はない。道路と水田の境にあり、流水を留めて何らかの作業に使用した可能性もある。SX3は、小ぶりの掘り込み状の遺構である。楕円形を呈し、長径2 m 14 cm、短径1 m 40 cm、中心部の深さ42 cmを測る。SX2と同様に、遺構内には頭大の石が配されているが、規則性はない。底部で、長さ74 cm、直径5.4 cmの榿の枝が、石の下より出土した。榿の枝に、加工の痕跡はない。流水を留めて作業に使用し、破棄されたものと思われる。

第5章 遺物

本渡北小学校プール遺跡からは、縄文時代、弥生時代、古墳時代、奈良時代・平安時代、鎌倉時代と、各時代の遺物が出土している。出土遺物の主体は、奈良時代・平安時代の遺物である。多量の遺物は段丘上の遺跡からの流れ込みのため、ほとんどの遺物が激しく磨滅しており接合率が低い。土師器の甕や壺を中心に、須恵器の甕・壺・坏、黒色土器の碗、白磁、青磁などが出土しているが、実測可能な遺物について時代ごとに、種別・器種について述べる。

1 縄文時代の石器 (第7図・口絵2)

土器は小破片で出土し、実測できる遺物はない。現状における観察では、胎土は砂粒混じりで荒い。黒褐色または赤褐色を呈し、焼成はもろい。明確な文様を残す土器は出土していないが、形状より縄文時代後期の土器と思われる。隣接する浜崎貝塚との関連が、注目されよう。石器は6点出土しており、石鏃3点、剥片石器1点、磨石1点、石斧1点である。1は安山岩製の石鏃で、基部に浅い抉りを有し、丁寧な作りをしている。2は黒曜石製で、基部に浅い抉りを有し、先端部と片脚部を欠損する。3は黒曜石製の長脚の石鏃で、先端部と片脚部を欠損する。4は剥片石器（ラウンドスクレイパー）で、側面に加工を施し刃部を作り出している。5は安山岩製の磨石で、中央周辺の一面を使用している。6は粘板岩製の石斧で、刃部を欠損する。残存する側面の刃部周辺には、磨きが施されている。



第7図 縄文時代の石器

2 弥生式土器 (第8図・第4図版)

弥生式土器は少量の出土で、しかも小破片のため復元できる遺物はない。実測可能な12点は、甕9点、壺1点、高杯2点である。なお、隣接する浜崎遺跡において、少量の弥生式土器が表面採集されており、石包丁の発見も記録されている。天草では弥生時代の出土遺物は極めて少なく、今後の研究資料となる遺物であると同時に、周辺での遺跡確認が期待される。

—甕・壺・高杯—

7は甕の頸部から口縁部で、内外面とも激しく磨滅している。口辺部は真っ直ぐに立ち上がり、しだいに外湾し垂直な口縁部を有する。8は甕の口辺部で、ゆるやかに外湾し「く」の字状の口縁となり、内側の口縁には刻みが施されている。内外面とも、激しく磨滅している。9は甕の胴部で、一条の帯を巡らす弥生時代終末期の土器である。10は甕の底部で、磨滅しており、9と同一個体の可能性がある。11は口縁部が外に開き、頸部がくびれる甕の口縁部で、弥生時代後期の黒髪Ⅱ式である。12は壺の口縁部で、後期の土器と思われる。13は台付き甕の台部で、内外面とも磨耗した弥生時代後期の黒髪Ⅱ式である。14は台付き甕の台部で、内外面に調整痕が残る後期の土器である。15、16は甕の底部で、短い高台が付く。内外面とも激しく磨滅するが、後期の土器と思われる。17は高杯の坏部で、頸部から外に開く形態であるが、口辺部を欠損する。18は高杯の脚部で、坏との付け根から直に下がり裾で大きく開く形態である。

3 土師器

本渡北小学校プール遺跡では、弥生時代終末期から古墳時代、奈良時代、平安時代の土師が出土した。出土遺物の主体であり、特に古代(奈良・平安)の遺物が多い。流れ込みのため、殆どの遺物が磨耗しており、接合率は低く復元できる個体は無い。地形より、段丘上の遺跡の遺物が流れ込んだと考えられる。特に正門駐車場側の土層断面において、土壌を確認しており、遺跡が存在する。おそらく、現在の正門駐車場から体育館、校舎にかけて平安時代の遺跡が存在することは確実であろう。

1) 弥生時代の土師器 (第9図・第4図版)

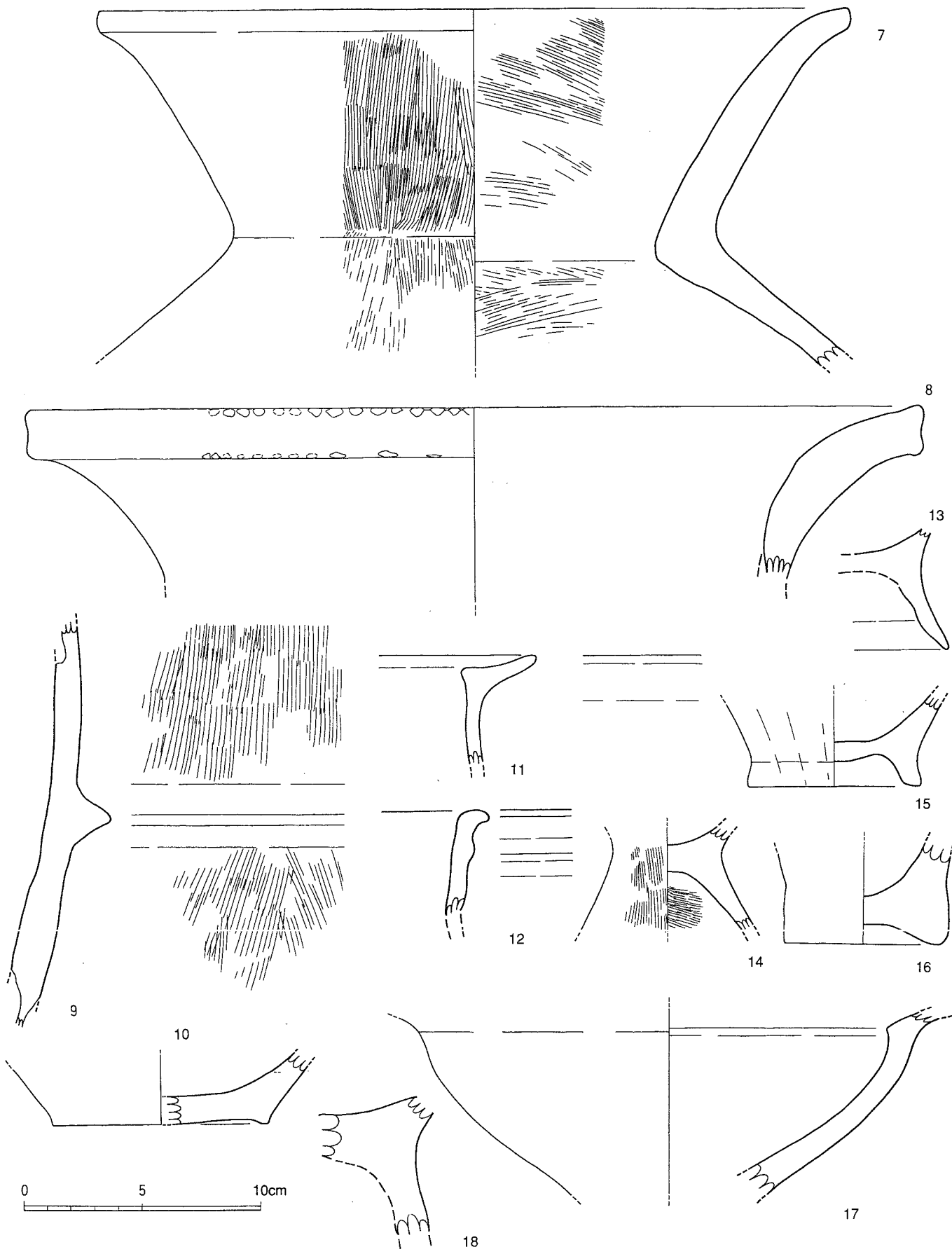
弥生時代後期の実測可能な土師器3点は、甕2点、壺1点である。

—甕—

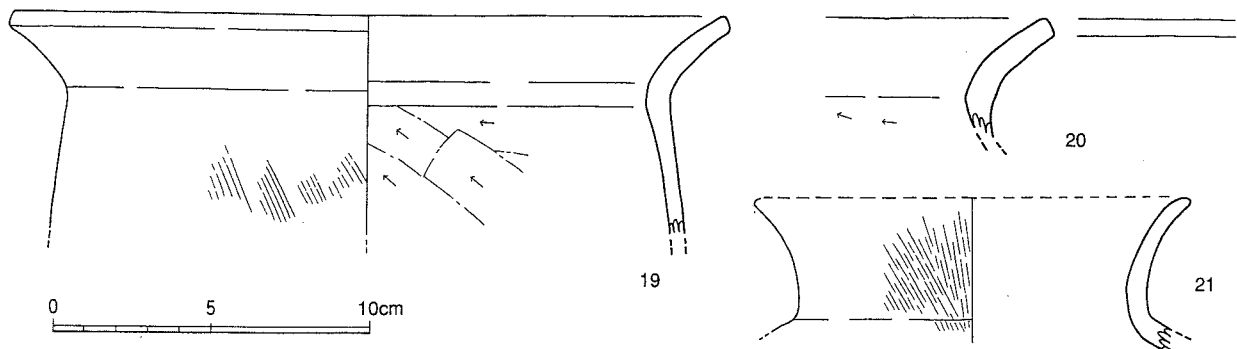
19は甕の口辺部で、横ナデの調整を施している。胴部外面はハケ目、内面はヘラ削りの痕が残る。20も甕の口辺部で、粗い横ナデの調整を施している。胴部外面はハケ目、内面はヘラ削りである。

—壺—

21は壺の口辺部で、外面はハケ目と回転横ナデ調整の痕が残る。内面は、ヘラ削りである。



第8图 弥生式土器



第9図 弥生時代の土師器

2) 古墳時代の土師器 (第10図・第4図版)

古墳時代の実測可能な土師器 20 点は、甕 10 点、壺 7 点、高杯 3 点である。

—甕—

22 は大型の甕で、口縁部が直に立ち上がる。外面は磨耗しており、内面にはヘラ削りの痕が残る。23, 24, 25 は小型の甕で、頸部より口辺部が内湾気味に立ち上がる。口辺部は内外面とハケ目と横ナデの痕が残る。26, 27, 28, 29, 30, 31 は甕の頸部から胴上半部で、内面にヘラ削り、外面にハケ目と横ナデ調整の痕が残る。

—壺—

32, 33 は壺の口辺部で、4 世紀代の土師器である。32 は、外面横ナデ、内面にはヘラ削りの痕が残る。33 は、外面ハケ目の後横ナデ、内面にもハケ目の後横ナデの痕が残る。34 はラッパ状に開く壺の二重口縁部で、内外面とも磨耗する。35 は壺の口辺部が、頸部から斜め方向に直線的に立ち上がる。内面は磨耗し、外面にハケ目の後横ナデの痕が残る。36 は小型丸底の壺で、内外面とも磨耗のため調整については不明である。37, 38 も小型の壺で、口縁部が短く斜に直に立つ。

—高杯—

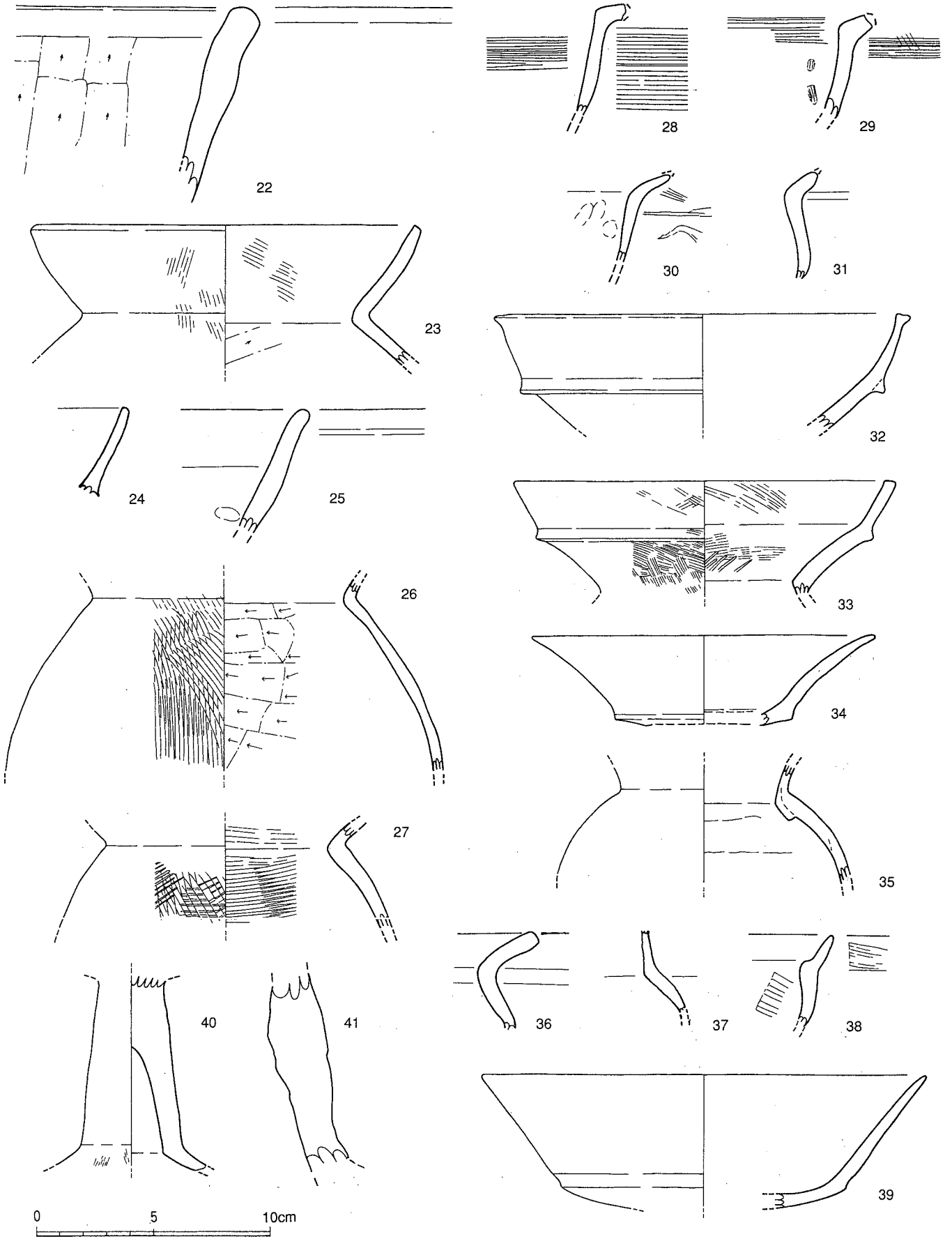
39 は高杯の坏部で、明瞭な屈曲で段をなし、直線的に斜めに開く。内外面には、微かに赤彩を施した痕が残る。40 は高杯の脚部で、付け根から直気味に下がり裾で急激に開く。41 も高杯の脚部で 40 と同じ形式であるが、脚の中位でやや膨らみ気味となって下がり裾で大きく開く。胎土が荒く、ぼってりとした脚である。

3) 古代 (奈良・平安) の土師器 (第11・12・13図・第5図版)

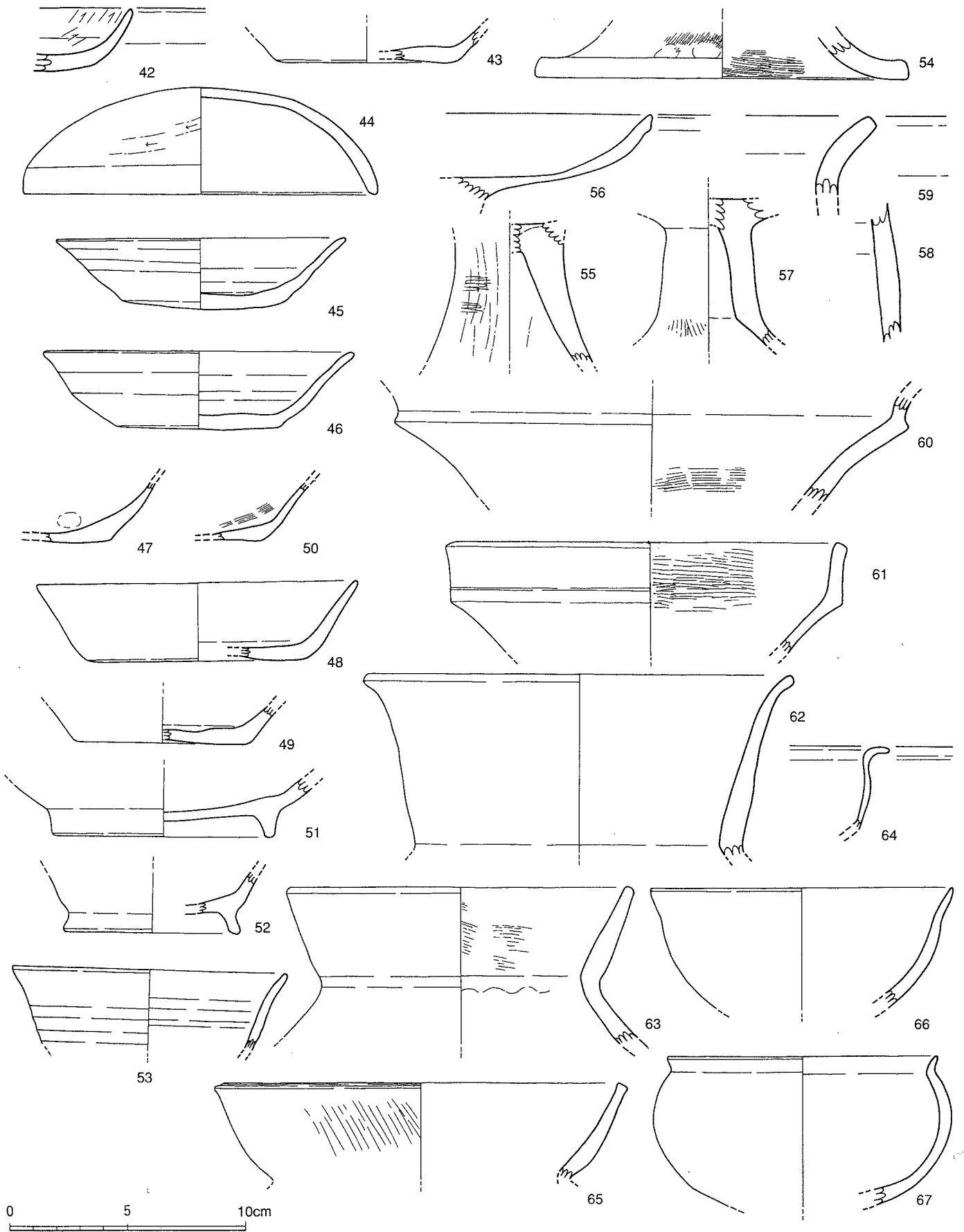
天草における古代の遺物については、これまで出土例が報告されていない。奈良時代・平安時代を、一括して古代としてまとめ器種ごとにのべる。出土遺物の中で最も多量で、碗 1 点・皿 1 点・蓋 1 点・坏 9 点・高杯 4 点・壺 9 点・甕 29 点の計 54 点が実測可能であった。

—碗・皿・蓋—

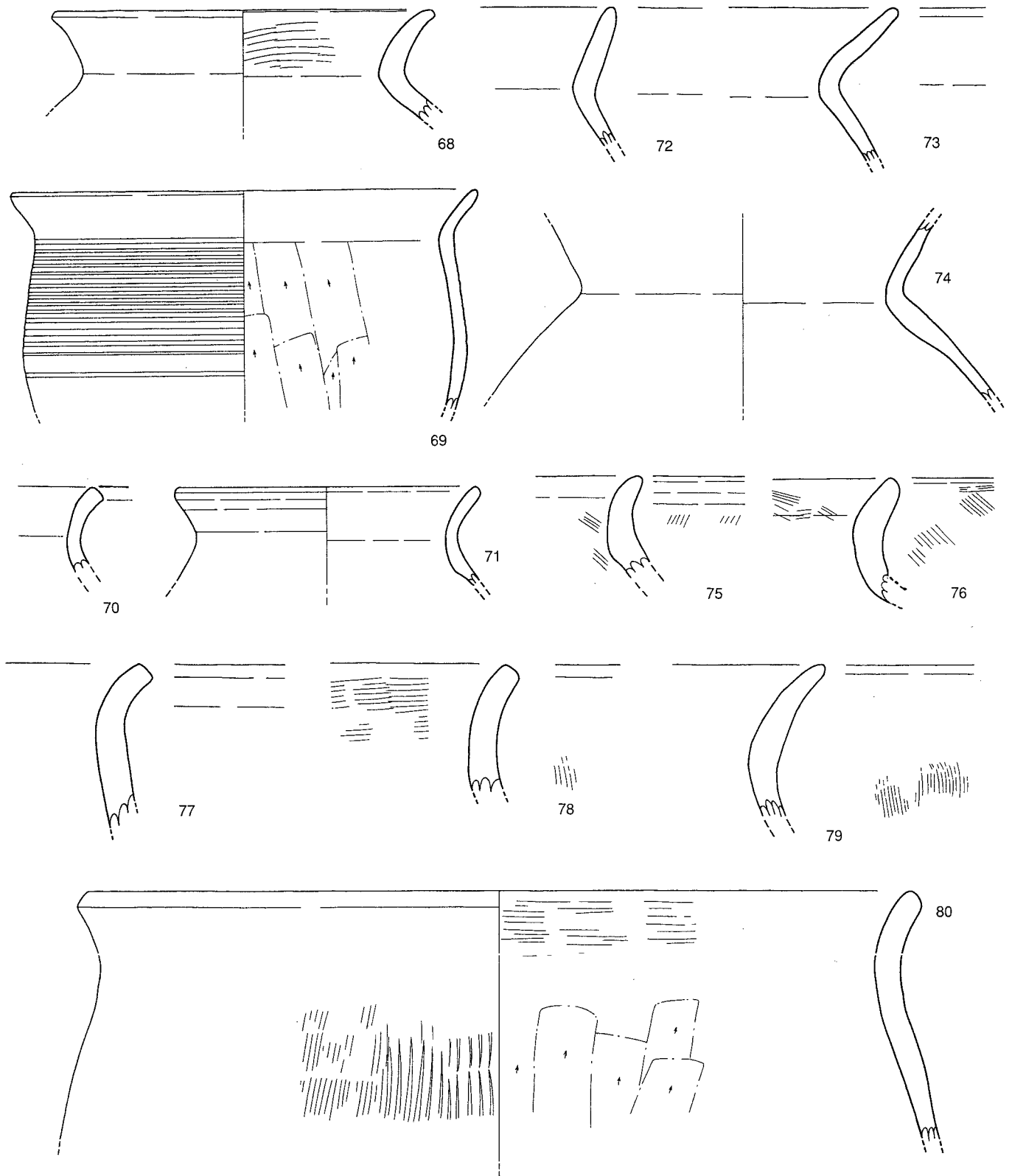
42 は浅い碗で、胴部から内湾しながら口縁部が立つ。内外面とも磨耗が激しく、調整については不明である。43 は皿の底部で、ヘラ切りである。内外面とも磨耗が激しく、調整については不明である。44 は蓋で、外面は磨耗している。内面はナデ調整を施している。



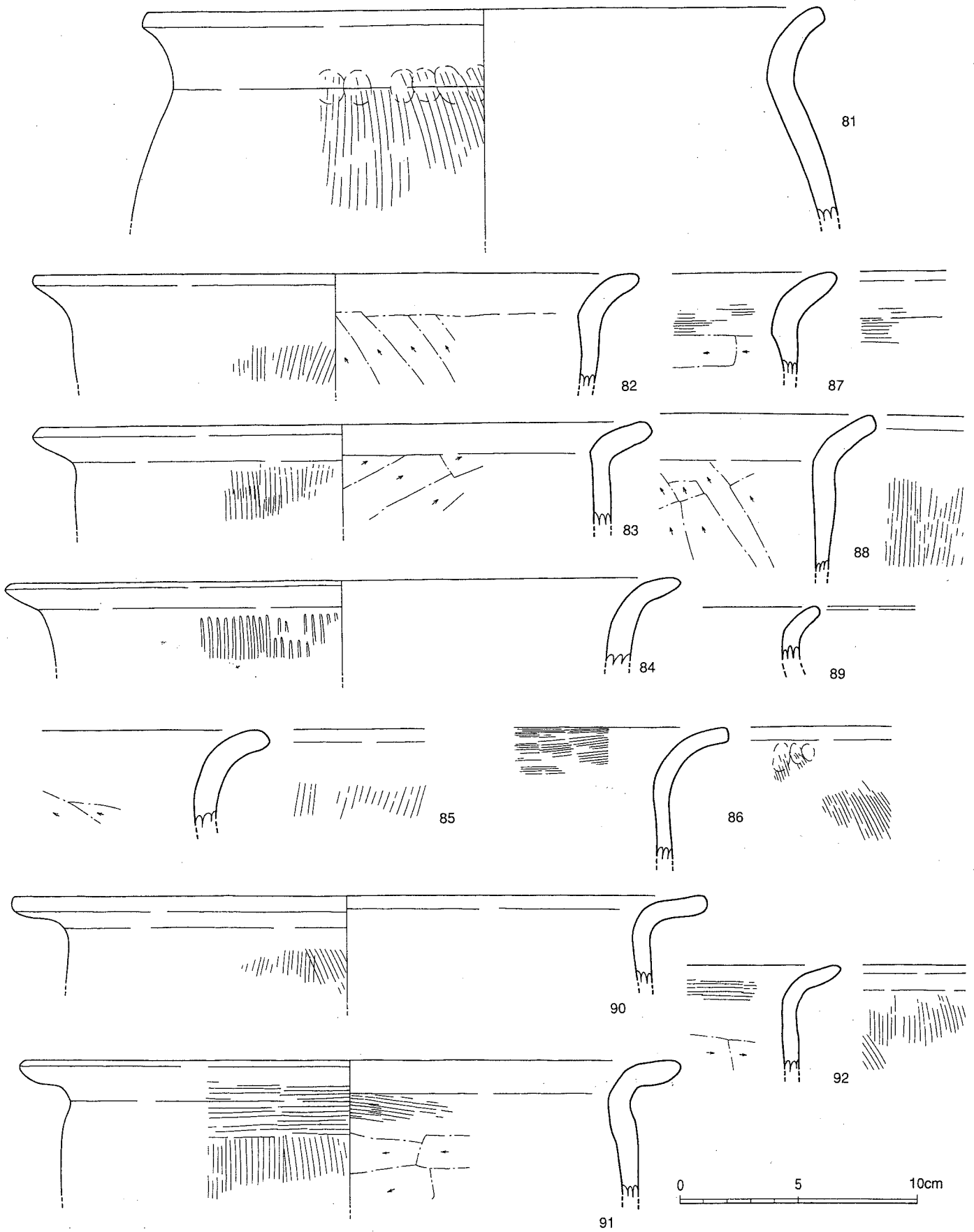
第10図 古墳時代の土師器



第11図 古代（奈良、平安）の土師器1 碗・皿・蓋・杯・高杯・壺



第12図 古代(奈良・平安)の土師器2 甕



第13図 古代（奈良、平安）の土師器3 甕

— 坏 —

坏は9点を実測するが、体部の立ち上がり角度により2類に分類される。

I類 底部から45°の角度で斜めに立ち上がる。(3点)

II類 底部から50°～60°の角度で立ち上がる。(3点)

I類は、45、46、47の3点である。45はヘラ切の後ナデ調整、体部の内外面にも回転ナデ調整を施している。体部内外面には、所々に赤彩が残る。46はヘラ切の後ナデ調整、体部の内外面にも回転ナデ調整を施している。47は底部で、ナデ調整痕が微かに確認されるが磨耗する。II類は、48、49、50の3点で、ヘラ切り離しである。48、49は磨耗のため、調整については不明である。50はヘラ切の後ナデ調整、体部の内外面にも回転ナデ調整を施している。体部内外面には、所々に赤彩が残る。

51は坏の高台で、高さ1cmの台形状高台が垂直に付く。内外面とも、丁寧な横ナデ調整が施されている。

52は坏の高台で、高さ7mmの外に踏み出す高台が付く。磨耗のため調整は不明であるが、内面に赤彩が残る。53は坏の口辺部で、内外面とも回転ナデ調整を施している。

— 高杯 —

54は高杯の脚部で、復元径15.1cmを計る。ハケ目の後横ナデ調整を施し、裾には指頭圧痕が残る。55は高杯の脚部で、付け根から緩やかに開き気味に下がる。脚部外面はヘラ削りによる調整が施され、赤彩が残る。56は高杯の坏部で、55と同一個体と考えられる。磨耗のため調整は不明であるが、内外面とも赤彩が良く付着している。57は高杯の脚部で、付け根から直線的に開き気味に下がり、裾で明瞭な段を有して大きく開く。58は高杯の脚部で、付け根から直線的に下がり、裾で激しく開く脚である。

— 壺 —

59は壺の口辺部で、ラップ状に開き内外面ともに回転ナデ調整を施している。60、61は壺の二重口縁部で、内外面ともハケ目の後横ナデ調整を施している。62は頸部から真っ直ぐに立ち上がり、口縁部が外湾する。内外面とも磨耗が激しく、調整については不明である。63、64、65、66は頸部から斜めに立ち上がり、口辺部がやや内湾する。内外面とも磨耗が激しく、調整については不明である。67は口縁部が外湾する小型丸底壺で、内外面とも磨耗が激しい。

— 甕 —

甕は量的にも多く29点を実測したが、口辺部は形態により5類に分類することができた。

I類 頸部から口辺部が斜めに直に立ち、口縁部がやや外に開く。(4点)

II類 頸部から口辺部が斜めに立ち、口縁部がやや内湾する。(3点)

III類 頸部から口辺部が緩やかに外湾する。(6点)

IV類 頸部から口辺部が大きく外湾する。(9点)

V類 口縁部が横に開く(3点)

I類に区分されるのが、68、69、70、71の4点である。68は口辺部で、胴部は磨耗しており、口縁部の内外面はハケ目の後横ナデ調整を施している。69の胴部外面はカキ目調整を施し、内面はヘラ削

り調整を施している。口辺部内外面はナデ調整で、復元口径 18.6 cmを計る。70, 71 は口辺部で、内外面ともハケ目の後横ナデ調整を施している。

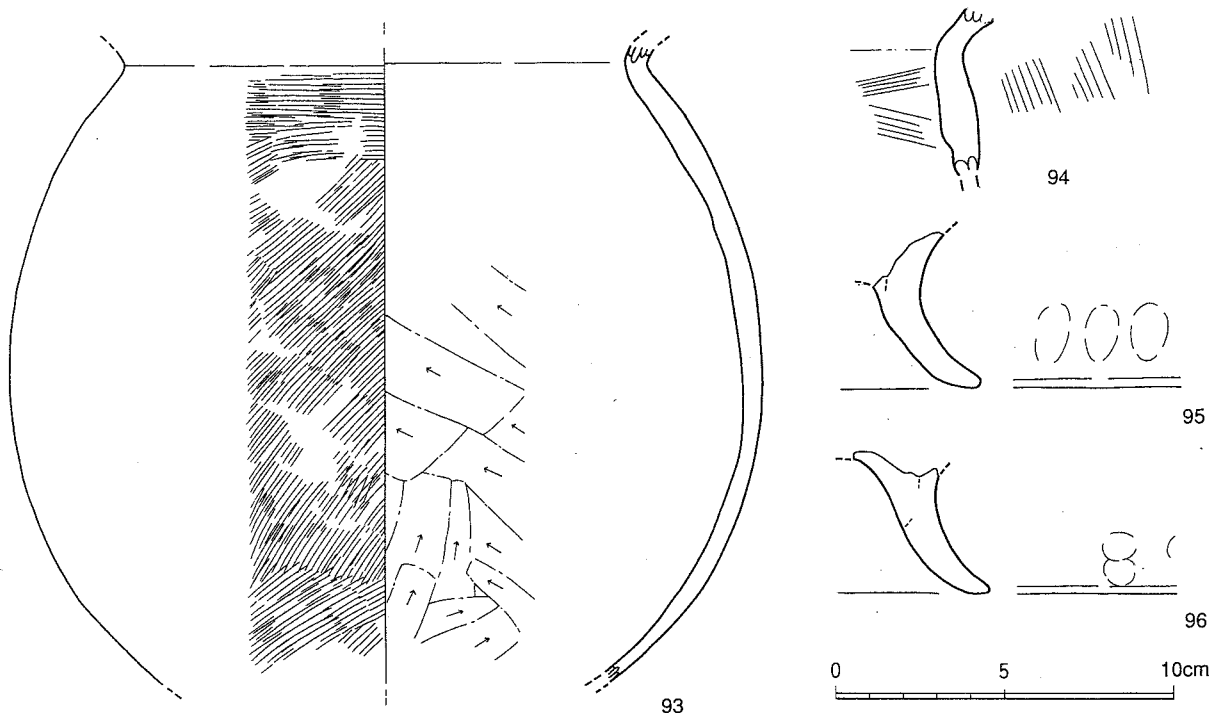
Ⅱ類に区分されるのが、72, 73, 74 の3点である。3点とも、磨耗のため調整については不明である。

Ⅲ類に区分されるのが、75, 76, 77, 78, 79, 80 の6点である。75, 76 は厚い口縁部で、横ナデの調整を施しているが、内外面とも磨耗が激しく詳細は不明である。77 は厚い口縁部で、横ナデの調整を施している。78, 79, 80 も厚い口縁部で、ハケ目の後横ナデの調整を施している。特に78には、内外面に煤が付着する。

Ⅳ類に区分されるのが、81, 82, 83, 84, 85, 86, 87, 88, 89 の9点である。81 は胴部から口縁部で、胴部外面はハケ目の後ナデ調整、内面は磨耗のため不明である。口辺部は横ナデ調整で、頸部には指頭圧痕が残る。82 は胴部から口縁部で、胴部外面ハケ目、内面はヘラ削り調整を施している。口縁部は横ナデで、内面に煤が付着する。83, 85 は胴部から口縁部で、胴部外面はハケ目の後ナデ、内面はヘラ削り調整を施している。口辺部は、横ナデある。86, 88 は胴部から口縁部で、胴部外面はハケ目、内面は磨耗のため不明である。口辺部は横ナデ調整で、頸部には指頭圧痕が残る。84, 87, 89 は口辺部で、外面はハケ目の後横ナデ、内面はナデ調整を施している。3点とも煤の付着と、磨耗が見られる。

Ⅴ類に区分されるのが、90, 91, 92 の3点である。いずれも胴部から口縁部で、胴部外面にはハケ目の後ナデ調整、内面は磨耗のため不明である。口縁部は、横ナデ調整を施している。

他に甕として、胴部4点を実測したが、接合しないため図化できない遺物が多量であった。93 は甕の頸部から底部で、外面はハケ目調整を施し、煤の付着が広範囲に見られる。内面はヘラ削りで、頸部周辺は削りの後にナデ調整を施している。94 は頸部から同部で、外面はハケ目の後横ナデ調整を施している。内面はヘラ削りで、頸部周辺は削りの後にナデ調整を施している。95, 96 は甕の台部で、同一個体の可能性がある。内外面ともナデ調整を施し、指頭圧痕が残る。



第14図 古代（奈良、平安）の土師器4 甕

4 須恵器

本渡北小学校プール遺跡では、土師器について古墳時代、奈良時代、平安時代の須恵器が出土している。これまで、天草では古墳より出土した須恵器も大変少なく、生活遺構からの須恵器の出土は報告されていない。今後、調査の進展により浜崎町一帯の遺跡分布が明らかになることが期待される。実測可能な須恵器は、古墳時代の須恵器 5 点、古代の須恵器 25 点、計 30 点であった。

1) 古墳時代の須恵器 (第15図・第6図版)

古墳時代の須恵器は、坏 2 点、甕 3 点、計 5 点を実測した。

— 坏 —

97 は坏で、復元口径 12.7 cm、復元受部径 15.0 cm を計る。底部外面はヘラ削りで、体部は回転ナデ調整を施している。98 も坏の受部で、回転ナデ調整を施している。

— 甕 —

99 は甕の胴部から口縁部で、外面にカキ目の後格子目の叩き調整、内面に同心円文叩きの後ナデ調整を施している。100 は甕の頸部から口縁部で、回転ナデ調整を施している。101 は甕の胴部で、外面は格子目叩きの後横方向の回転ナデ、内面は同心円文叩きの後一部にナデ調整を施している。

2) 古代の須恵器 (第16・17図・第6図版)

古代の須恵器は、碗 1 点、盤 1 点、甕 2 点、坏 5 点、蓋 2 点、高杯 2 点、壺 12 点、計 25 点を実測した。

— 碗・盤 —

102 は碗の口縁部で、内外面とも横ナデ調整、外面には薄く自然釉がかかる。103 は盤で、底部外面はヘラ切りの後ナデ調整、口辺部や内面は回転ナデ調整を施している。

— 甕 —

104 は甕の頸部で、胴部外面はカキ目、口辺部は回転ナデ調整を施している。内面は、回転ナデ調整である。105 は甕の頸部で、胴部外面はカキ目の後格子目の叩き調整、内面は回転ナデ調整を施している。

— 坏 —

坏は 4 点を実測するが、体部の立ち上がり角度により 2 類に分類される。

I 類 底部から 40° の角度で斜めに立ち上がる。(2 点)

II 類 底部から 60° の角度で立ち上がる。(2 点)

I 類は、106, 107 で、底部から 40° の角度で直線的に立つ。106 は、底部をヘラ切りの後ナデ調整、体部は回転ナデ調整を施す。107 は、底部から 40° の角度で立つ。底部は磨耗のため調整不明、体部外面と内面は回転ナデ調整を施す。

II 類は、108, 109 で、底部から 60° の角度で斜めに立つ。108 は、内湾気味に立ち、口縁部が外に開く。底部はヘラ切りの後ナデ調整。109 は、直線的に立ち上がり、底部はヘラ切りの後ナデ調整、体部は回転ナデ調整を施す。

110 は高台付き坏で、高さ 5 mm の高台を有する。内外面とも、丁寧な回転ナデ調整を施す。

－蓋－

111 は蓋で、内外面とも回転ナデ調整を施す。外面上部はヘラ削りで調整し、ヘラ記号が残る。112 は蓋で、内外面とも回転ナデ調整を施す。

－高杯－

113 は高杯の坏部で、外面はカキ目調整、内面は回転ナデ調整を施す。外面の口辺部の立ち上がり箇所は、2本の沈線により屈曲する。114 は高杯の脚部で、坏の付け根から裾に開いている。内外面とも回転ナデ調整で、外面には 1 cm 程の間隔で縦方向の沈線が入る。

－壺－

115 は小型丸底壺の底部から胴部で、底部外面をヘラ削り、胴部には回転ナデ調整を施す。内面は、回転ナデ調整である。116 は小型平底壺の底部から頸部で、底部外面をヘラ削り後ナデ調整、胴部中位までヘラ削り、肩部から頸部にかけて回転ナデ調整を施している。内面は、底部から胴部中位までヘラ削り、肩部から頸部にかけて回転ナデ調整である。117 は小型平底壺の底部で、底部外面をヘラ削り後ナデ調整、内面を回転ナデ調整を施している。118 は壺の肩部から口縁部で、外面頸部までカキ目、頸部から口縁部に回転ナデ調整を施している。内面は、回転ナデ調整である。119, 120, 121, 122, 123 は壺の口辺部である。いずれも、内外面とも回転ナデ調整を施す。124 は壺の胴部で、外面格子目叩き、内面カキ目調整を施す。内外面とも、灰釉がかかる。125 は壺の胴部で、外面格子目叩き、内面同心円文文叩き後、一部にナデ調整を施している。外面全体に、灰釉がかかる。126 は壺の胴部で、外面格子目叩き後カキ目調整、内面同心円文叩き後ナデ調整を施している。127 は外面縄目叩き後カキ目調整、内面カキ目調整を施している。

5 黒色土器・瓦質土器 (第18図・第7図版)

出土遺物の中で、黒色土器 6 点・瓦質土器 7 点を実測したが、復元できる遺物は無い。黒色土器は、浜崎遺跡出土の遺物とあわせ今後の資料となろう。

－黒色土器－

128 は碗で、高台が外に踏み出す。底部から、斜めに直に立ち口縁部がやや外湾する。碗の外面胴部下から口縁部にかけて、回転ナデ調整を施している。内面は、磨耗のため調整不明。129, 130, 131 は碗の口辺部で、外面は磨耗のため調整不明、内面はヘラ磨きが施されている。132 は碗の底部から胴部で、高台が外に踏み出す。碗の外面は磨耗のため調整不明、内面はへ磨きが施されている。133 は碗の底部から胴部で、高台が欠損する。碗の外面は磨耗のため調整不明、内面も磨耗するが微かにヘラ磨きの痕が残る。

－瓦質土器－

134 は捏鉢の口辺部で、「く」字状の口縁である。内外面とも、回転ナデ調整を施す。135 はすり鉢の口辺部で、平坦な口縁である。内外面とも磨耗する。136 はすり鉢の口辺部で、平坦な口縁である。内

外面とも激しく磨耗する。137 はすり鉢の胴部で、焼成は良い。138 , 139 は瓦質土器の体部であるが、詳細は不明である。

6 陶器 (第18図・第7図版)

陶器は、常滑焼や備前焼の壺・甕の破片が極少量出土している。140 は常滑焼の壺の胴部である。141 は水注の胴部で、外面に施釉する。

7 磁器 (第19図・第7図版)

磁器は、青磁6点と白磁11点を実測できた。中国の龍泉窯や南部の窯からの搬入品が中心で南宋時代の遺物である。なお、明時代の青磁3点が出土するが、本渡城出土遺物に類似品があり、室町時代、戦国時代の周辺遺跡との関連も注目される。

— 青磁 —

142, 143 は龍泉窯系青磁の碗の口縁部で、外面体部に連弁文を有する。142 は細くシャープな連弁で、淡い緑色である。143 は幅広い連弁で、黄緑色である。144 は碗の底部で、高台の底に釉は無い。143 と同一個体の可能性がある。145 は器形が不明な、明時代の青磁である。淡い緑色で、内面には沈線文が描かれ、口縁部は刻み目を巡らしている。器肉は厚く、鉢や盤の可能性がある。146 は器形が不明な、明時代の青磁である。淡い青緑色で、外面に細かな鎬連弁文が描かれている。147 は碗の高台で、高台底も施釉され、淡い青緑色である。

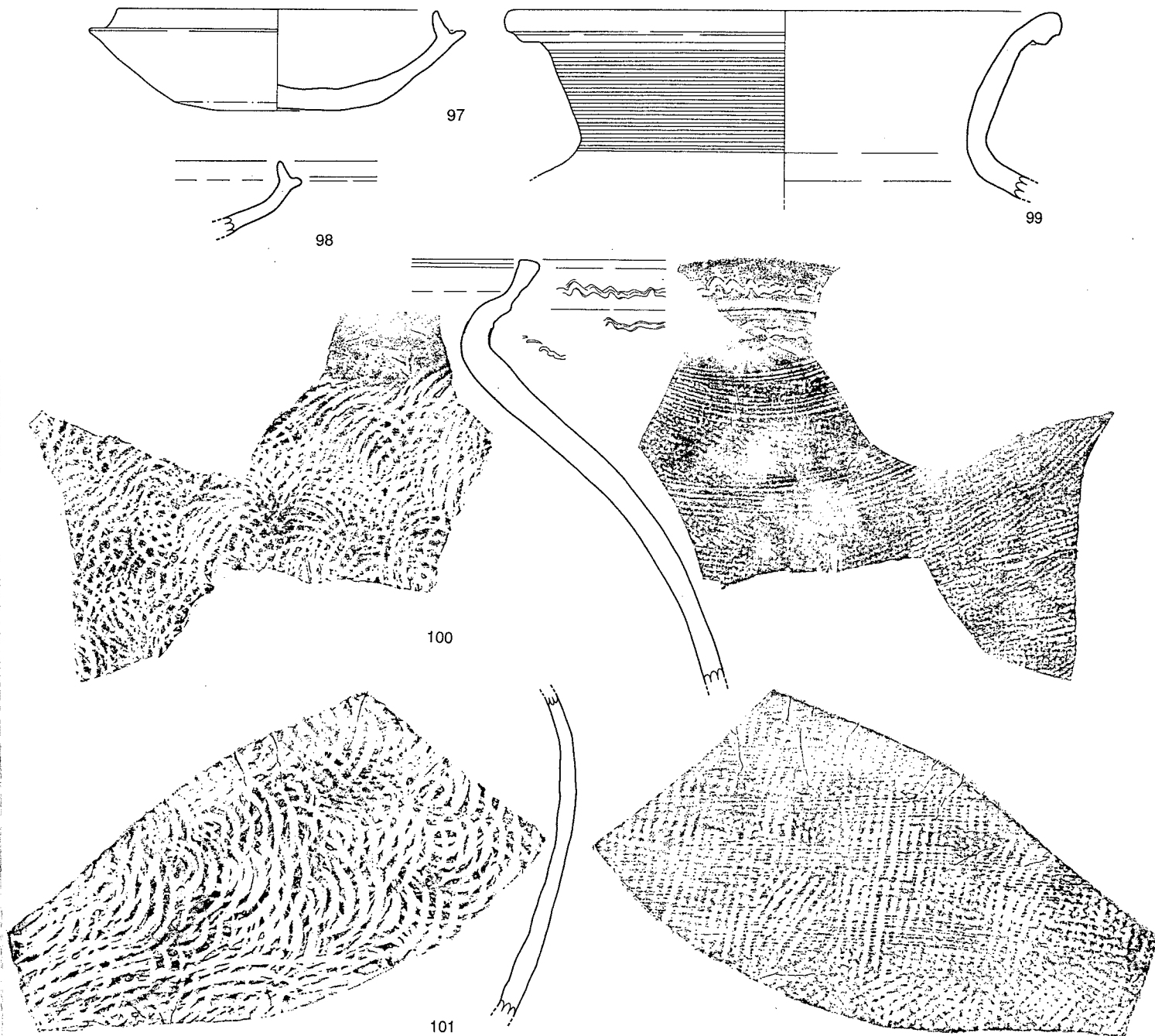
— 白磁 —

148, 149, 150 は鈍い白色の碗で、口縁部に厚く大きな玉縁を有する。151 は口ハゲの碗で、暗い白色である。152 は鈍い黄色の碗で、器肉は薄く内面上位に一条の沈線を巡らす。153 は口縁部に輪花を巡らす淡い青白色の碗で、器肉は薄く内面に縦方向に浅い沈線を入れている。154 は鈍い白色の碗の底部で、台形状の低い高台を有する。底部外面から胴部下位にかけては無釉、内面見込み部に一条の沈線が巡る。155 は淡い青白色の碗の底部で、やや高く外に踏み出す高台を有する。高台底は無釉で、見込み部は平坦である。156, 157, 158 は皿の底部で、内面は平坦な見込みとなり、屈曲部は一条の沈線で区分され体部が立ち上がる。底部は、外面がヘラ削りにより無釉で中央部が窪む。内面は、鈍い白色である。特に、156の内面は、片切彫を施し施釉する。

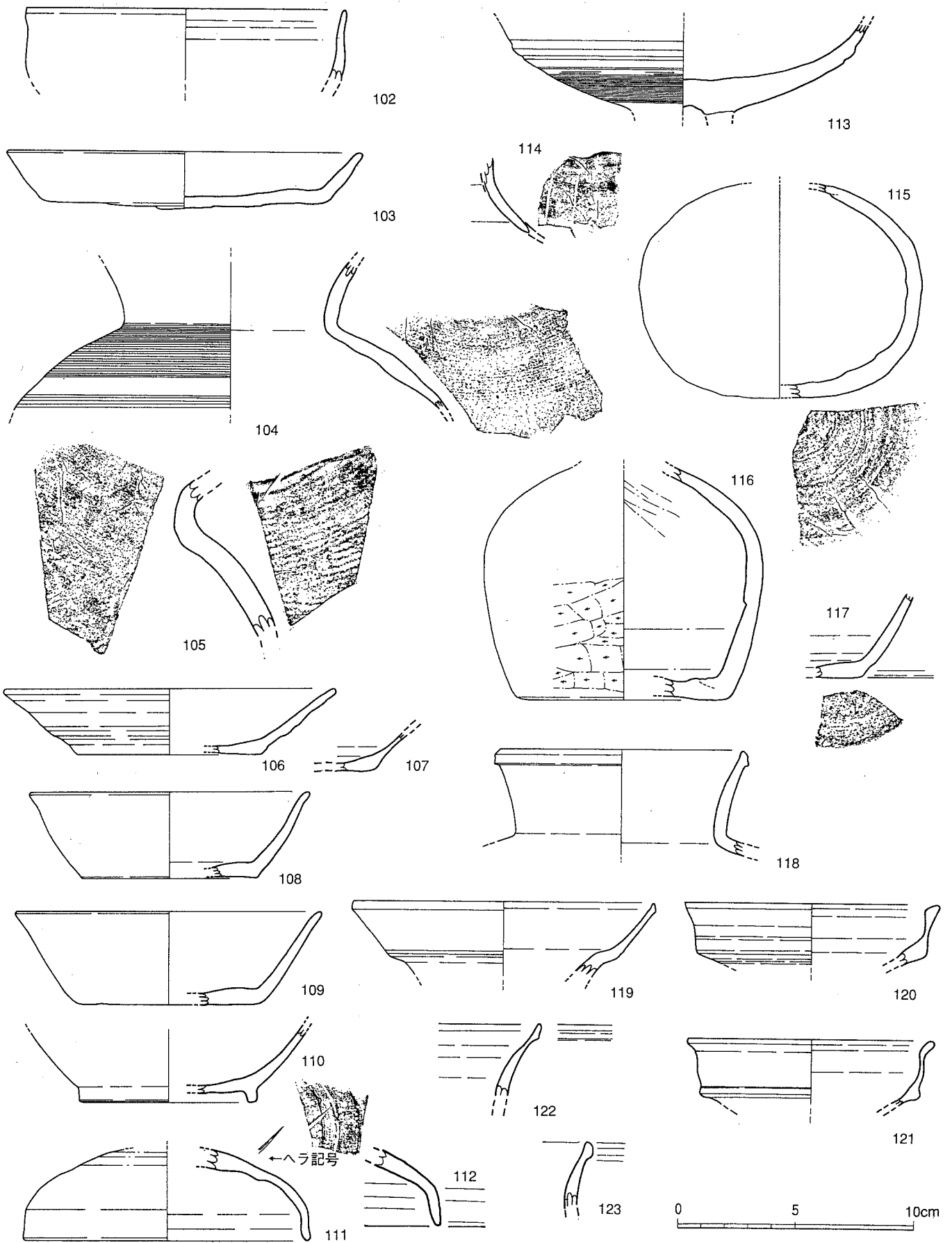
8 その他 (第19図・第7図版)

159, 160, 161 甌の把手で、把手全面にナデ調整を施している。161 には、指頭圧痕が残る。162 は轆の羽口の先端部で、スラグが付着する。他に、鍛冶関連遺物の出土はないが、隣接する浜崎遺跡において、鍛冶炉が確認されている。163 は滑石製の石鍋で、外面は削り調整、内面は丁寧な磨き調整を施す。外面には、煤が付着する。164 は頁岩製の石玉で、遊具と考えられる。165 は瓦質に近い土器で、用途不明である。内外面とも、丁寧な磨きが施されている。166 は青銅器で、用途不明である。内部は

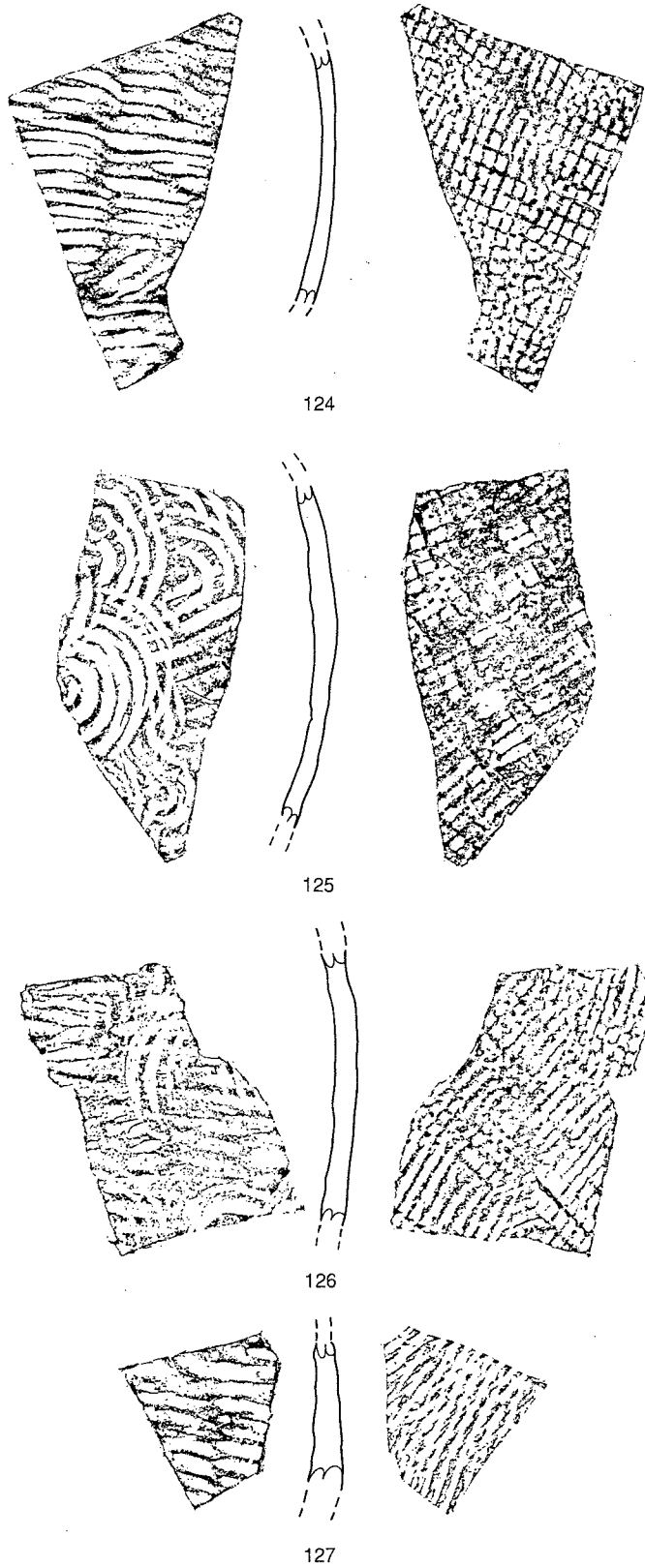
空洞で鑄型により製造されたことが判明するが、形態より仏教用具と考えられる。167 は中国銭で、直径 2.5 cm の円形、中心は 5 mm の方形を呈する。「至元通寶」で、元朝期の 1335 年から鑄造されている。



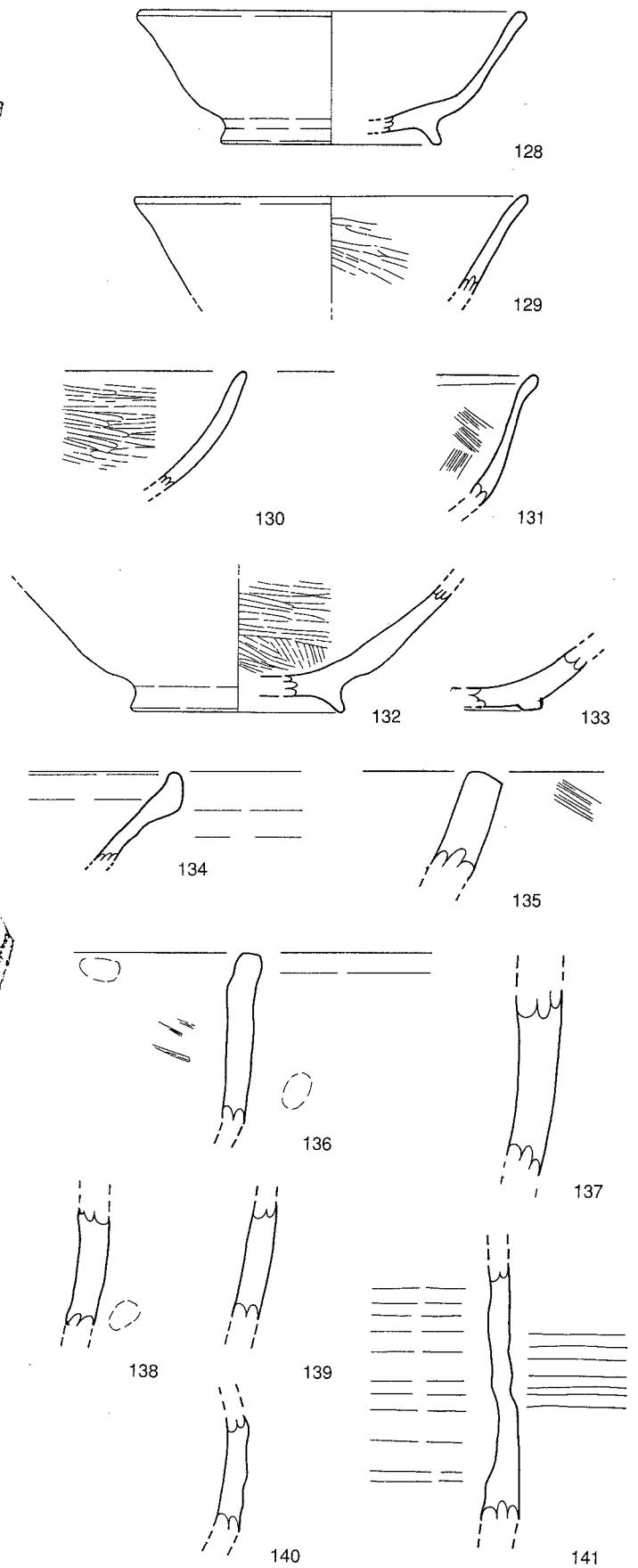
第15図 古墳時代の須恵器 1 杯・器・甕



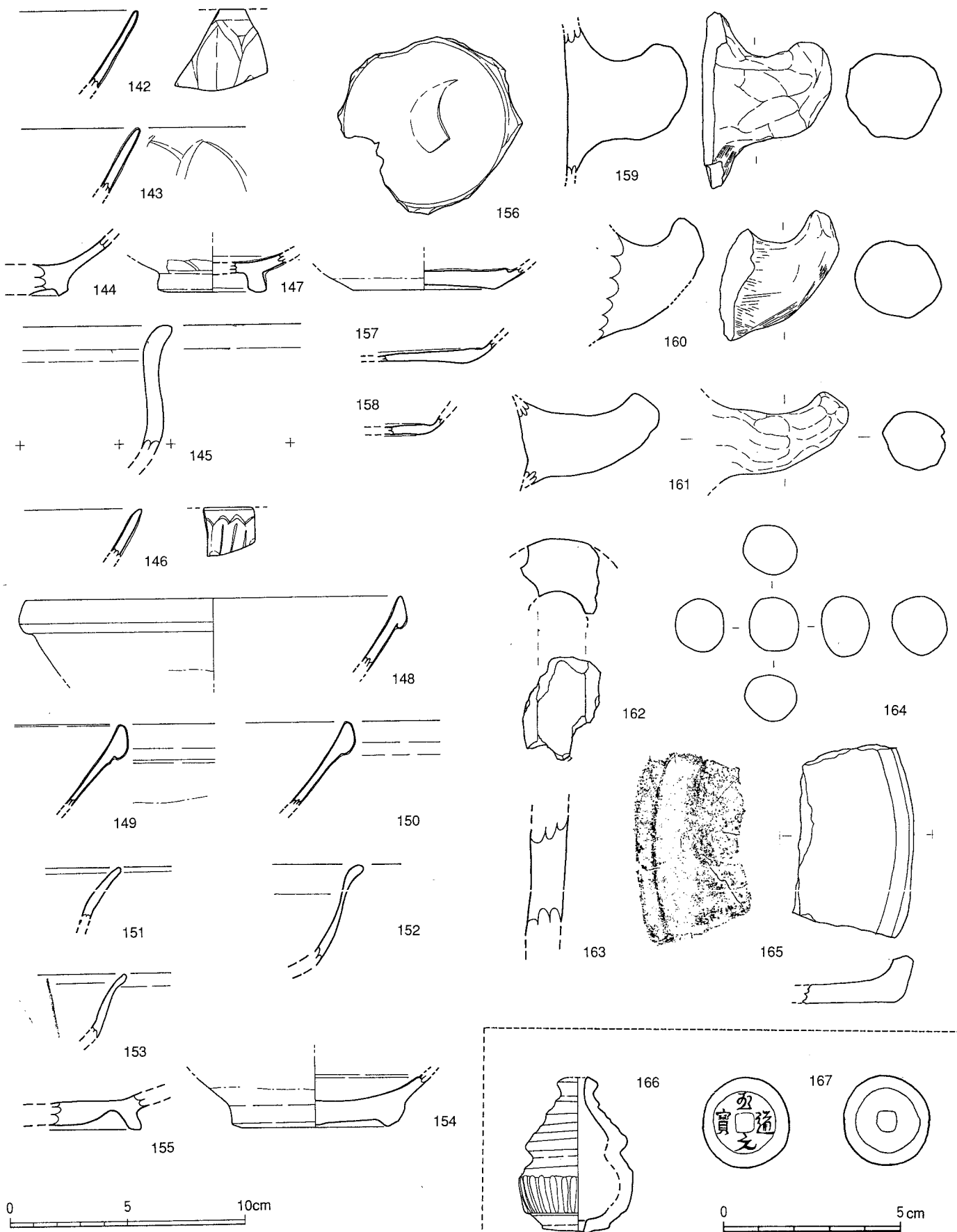
第16図 古代の須恵器 2 碗 盤 甕 蓋 坏 高坏 壺



第17図 古代の須恵器 3 壺



第18図 黒色土器・瓦質土器・陶器



第19図 磁器・その他

遺物観察表

番号	実測	遺構名	種別	器種	法量 口径底径器高	色調	胎土	焼成	残存	備考
1	58		石器	石鏃	2.1 1.5 0.3	0.5g 安山岩				縄文 小さな抉り
2	60	1工区IV層	石器	石鏃	2.1 1.4 0.4	1.0g 黒曜石				縄文 小さな抉り
3	61		石器	石鏃	1.8 1.9 0.1	1.1g 黒曜石				縄文 大きな抉り
4	59		石器	剥片	3.2 2.9 0.8	7.7g 黒曜石				縄文
5	57		石器	磨石	9.7 10.0 6.3	925g				縄文 一面使用
6	114	2工区II層	石器	石斧	11.2 4.4 2.9	180g				縄文
7	12	No.76、74 10、18、59	弥生土器	甕	31.5	外・鈍い橙色 内・鈍い橙色	1~3mm砂粒混	普通	破片	弥生 口縁部~頸部
8	13	No.101	弥生土器	甕	37.4 7.1	外・鈍い橙色 内・鈍い橙色	1~4mm砂粒混	普通	破片	弥生 口縁部
9	35	No.62、65	弥生土器	甕	16.7	外・鈍い橙色 内・鈍い橙色	0.5~1mm砂粒混	普通	破片	弥生 体部
10	36	No.70	弥生土器	甕	9.2	外・浅黄橙色 内・浅黄橙色	1mm砂粒混	普通	1/4残	弥生 底部
11	66	2C区IV層	弥生土器	甕		外・褐色 内・鈍い橙色	0.3mm砂粒混	普通	破片	弥生 口縁部
12	*101	7B区VIIb	弥生土器	壺		外・橙色 内・橙色	0.3mm前後砂粒混	普通	破片	弥生 口縁部
13	*60	5B区VIIb	弥生土器	甕		外・橙色 内・橙色	0.5mm前後砂粒混	普通	破片	弥生 台部
14	83	5Cベルト	弥生土器	甕		外・橙色 内・橙色	0.5mm砂粒混	普通	1/4残	弥生 台部
15	82	1C区VI層	弥生土器	甕	7.2	外・明褐色 内・明褐色	0.5mm砂粒混	普通	1/4残	弥生 底部
16	84	6C区	弥生土器	甕	6.6	外・橙色 内・橙色	0.5mm砂粒混	普通	1/4残	弥生 底部
17	81	7C区VIIb	弥生土器	高杯		外・橙色 内・橙色	0.5mm砂粒混	普通	1/4残	弥生 坏部
18	*90	6C区VIIb	弥生土器	高杯		外・橙色 内・橙色	0.3mm前後砂粒混	不良	破片	弥生 脚部
19	68	0C区V層	土師器	甕	22.4	外・灰白色 内・灰白色	0.5mm砂粒混	普通	1/6残	弥生 黒髪 口縁部
20	69	0C区V層	土師器	甕		外・灰白色 内・灰白色	0.5mm砂粒混	普通	破片	弥生 後期
21	108	6C区SP2	土師器	壺	13.3	外・鈍い橙色 内・鈍い橙色	1mm以下砂粒混	普通	1/3残	弥生 口縁部~頸部
22	34	No.83	土師器	甕		外・浅黄橙色 内・浅黄橙色	0.5mm砂粒混	普通	破片	古墳 口縁部
23	23	No.13、16	土師器	甕	16.0 5.9	外・明褐灰色 内・明褐灰色	0.5~1mm砂粒混	普通	1/2残	古墳 口縁部~頸部
24	*91	6C区VIIb	土師器	甕		外・明橙色 内・明橙色	0.3mm前後砂粒混	普通	破片	古墳 口縁部
25	*92	6C区VIIb	土師器	甕		外・明橙色 内・明橙色	0.3mm前後砂粒混	普通	破片	古墳 頸部
26	105	2A区SX1	土師器	甕	11.2	外・鈍い橙色 内・鈍い橙色	1mm以下砂粒混	良	1/6残	古墳 体部
27	106	5B区SP1	土師器	甕		外・鈍い橙色 内・鈍い橙色	1mm以下砂粒混	普通	1/5残	古墳 頸部~体部
28	*96	5B区VII	土師器	甕		外・暗橙色 内・暗橙色	1mm前後砂粒混	普通	破片	古墳 頸部
29	*97	6C区	土師器	甕		外・明褐色 内・明褐色	1mm前後砂粒混	普通	破片	古墳 頸部
30	*99	6C区VIIb	土師器	甕		外・暗橙色 内・暗橙色	0.3mm前後砂粒混	普通	破片	古墳 頸部
31	*100	6C区	土師器	甕		外・明褐色 内・明褐色	1mm前後砂粒混	普通	破片	古墳 頸部
32	32	No.50	土師器	壺	16.4 5.4	外・鈍い橙色 内・鈍い橙色	0.5mm砂粒混	普通	1/8残	古墳 口縁部
33	62	0C区IV層	土師器	壺	15.1 4.8	外・明褐色 内・浅黄橙色	0.5mm砂粒混	普通	1/6残	古墳 口縁部~頸部
34	*106	7C区VIIb	土師器	壺		外・暗橙色 内・暗橙色	0.5mm前後砂粒混	普通	破片	古墳 口縁部
35	*105	7C区VIIb	土師器	壺		外・橙色 内・明橙色	1mm前後砂粒混	普通	破片	古墳 口縁部
36	107	0B区SK2	土師器	壺		外・橙色 内・灰色	1mm前後砂粒混	普通	破片	古墳 頸部~体部
37	*13	1C区VI層	土師器	壺		外・鈍い橙色 内・鈍い橙色	0.5mm以下砂粒混	普通	破片	古墳 頸部
38	*104	7C区VIIb	土師器	壺		外・灰黒色 内・灰黒色	0.3mm前後砂粒混	普通	破片	古墳 口縁部
39	80	6B区VIIb	土師器	高杯	18.8	外・黄橙色 内・黄橙色	0.5mm砂粒混	普通	1/4残	古墳 杯部
40	109	5B区SP1	土師器	高杯		外・明黄褐色 内・橙色	1~3mm砂粒混	普通	脚部	古墳 脚部
41	*108	7C区VIIb	土師器	高杯		外・明橙色 内・明橙色	0.3mm前後砂粒混	普通	破片	古墳 脚部

番号	実測	遺構名	種別	器種	法量 口径底径器高	色調	胎土	焼成	残存	備考
42	*14	1 C区Ⅵ層	土師器	碗		外・鈍い橙色 内・橙色	0.3mm前後砂粒混	普通	破片	古代 口縁部
43	99	2 C区Ⅵ層	土師器	皿	6.8	外・浅黄橙色 内・浅黄橙色	1mm以下砂粒混	良	1/3残	古代 底部
44	40	No.57	土師器	蓋	14.8 4.5	外・灰黄褐色 内・灰黄褐色	0.5mm砂粒混	普通	3/4残	古代 完形
45	38	No.52	土師器	坏	12.4 6.8 3.0	外・鈍い橙色 内・鈍い橙色	0.3mm砂粒混	普通	2/3残	古代 口縁部
46	39	No.26、44	土師器	坏	12.9 7.1 3.3	外・浅黄橙色 内・浅黄橙色	0.3mm砂粒混	普通	1/3残	古代 口縁部
47	*16	5 C区Ⅵ層	土師器	坏		外・橙色 内・橙色	0.5mm以下砂粒混	普通	1/4残	古代 体部～底部
48	41	No.28	土師器	坏	13.6 8.2 3.3	外・浅黄橙色 内・浅黄橙色	0.5mm砂粒混	不良	1/4残	古代 口縁部～底部
49	42	No.41	土師器	坏	7.0	外・浅黄橙色 内・浅黄橙色	0.5mm砂粒混	不良	1/3残	古代 体部～底部
50	*15	1 C区Ⅵ層	土師器	坏		外・明灰褐色 内・明灰褐色	0.3mm前後砂粒混	良	1/5残	古代 赤彩 体部～底部
51	43	No.95	土師器	坏	9.2	外・橙色 内・橙色	0.3mm砂粒混	普通	1/2残	古代 高台
52	97	1 C区Ⅴ層	土師器	坏	7.3	外・浅黄橙色 内・浅黄橙色	1mm以下砂粒混	良	1/6残	古代 底部～高台
53	72	1 C区Ⅴ層	土師器	坏	11.4	外・明黄橙色 内・明黄橙色	微砂粒	普通	破片	古代 口縁部～頸部
54	65	0 C区Ⅵ層	土師器	高杯	15.8	外・鈍い橙色 内・鈍い橙色	0.3mm砂粒混	普通	破片	古代 口縁部
55	110	0 B区SK 2	土師器	高杯		外・鈍い橙色 内・褐色	1mm前後砂粒混	普通	坏部	古代 脚部
56	111	B区SD 1	土師器	高杯		外・赤彩色 内・赤色	1mm前後砂粒混	普通	杯部	古代 坏部
57	77		土師器	高杯		外・鈍い褐色 内・鈍い褐色	0.5～1mm砂粒混	普通	脚部	古代 脚部
58	*50	7 B区Ⅲ層	土師器	高杯		外・橙色 内・橙色	0.5mm前後砂粒混	普通	破片	古代 脚部
59	*102	6 B区Ⅶb	土師器	壺		外・明褐色 内・明褐色	1mm前後砂粒混	普通	破片	古代 口縁部
60	63	0 C区Ⅵ層	土師器	壺	4.4	外・褐色 内・浅黄橙色	0.3mm砂粒混	普通	破片	古代 頸部
61	64	0 C区Ⅵ層	土師器	壺	17.2 4.7	外・明褐色 内・明褐色	0.5mm砂粒混	普通	1/6残	古代 口縁部
62	20	No.19	土師器	壺	18.0 7.6	外・明褐色 内・明褐色	1～2mm砂粒混	普通	1/8残	古代 口縁部～頸部
63	102	5 B区SP 1	土師器	壺	14.4	外・鈍い橙色 内・鈍い橙色	0.5mm砂粒混	普通	1/4残	古代 口縁部～頸部
64	*66	7 C区Ⅶb	土師器	壺		外・明橙色 内・明橙色	0.5mm前後砂粒混	普通	破片	古代 口縁部
65	21	No.29	土師器	壺	16.8 4.0	外・鈍い橙色 内・鈍い橙色	1～2mm砂粒混	普通	1/8残	古代 初の圧痕あり
66	44	No.93	土師器	壺	12.9 5.1	外・明赤褐色 内・明赤褐色	微砂粒	普通	1/6残	古代 口縁部～胴部
67	45	No.77	土師器	壺	11.5 6.4	外・鈍い橙色 内・鈍い橙色	微砂粒	不良	1/3残	古代 口縁部～胴部
68	26	No104	土師器	甕	15.2 4.4	外・灰白色 内・灰白色	0.3mm砂粒混	普通	1/4残	古代 口縁部～頸部
69	73	2 C区Ⅵ層	土師器	甕	18.6	外・鈍い橙色 内・鈍い橙色	0.5mm砂粒混	普通	破片	古代 口縁部～胴部
70	*28	3 C区Ⅵ層	土師器	甕		外・明褐色 内・明褐色	0.5mm前後砂粒混	普通	破片	古代 口縁部
71	*42	4 C区Ⅵ層	土師器	甕		外・暗い橙色 内・橙色	0.5mm前後砂粒混	普通	破片	古代 口縁部
72	71	2 A区Ⅶ層	土師器	甕		外・明黄褐色 内・明黄褐色	0.5mm砂粒混	普通	破片	古代 口縁部～頸部
73	76	7 B区Ⅶb	土師器	甕		外・鈍い橙色 内・鈍い橙色	0.5mm砂粒混	普通	破片	古代 口縁部～頸部
74	74	7 B区Ⅶb	土師器	甕		外・明褐色 内・明褐色	0.5mm砂粒混	普通	破片	古代 頸部
75	*47	4 C区Ⅷ層	土師器	甕		外・明橙色 内・明橙色	1mm前後砂粒混	普通	破片	古代 口縁部
76	*48	8 C区Ⅷ層	土師器	甕		外・暗赤色 内・暗赤色	2mm前後砂粒混	普通	破片	古代 口縁部
77	22	No 35-1	土師器	甕	6.5	外・明褐灰色 内・明褐灰色	0.2mm砂粒混	普通	破片	古代 口縁部
78	28	No 38一括	土師器	甕	5.0	外・褐色 内・褐色	0.3mm以下砂粒混	普通	破片	古代 口縁部
79	70	0 C区Ⅷ層	土師器	甕		外・明黄褐色 内・灰褐色	0.5mm砂粒混	普通	破片	古代 口縁部
80	31	No 38一括	土師器	甕	33.0 9.7	外・鈍い橙色 内・鈍い橙色	0.5mm砂粒混	普通	1/8残	古代 口縁部
81	15	No.100	須恵器	甕	28.4 9.4	外・鈍い橙色 内・鈍い橙色	0.5～1mm砂粒混	普通	1/8残	古代 口縁部
82	17	No.34	土師器	甕	25.2 4.6	外・鈍い橙色 内・鈍い橙色	0.2mm砂粒混	普通	1/8残	古代 口縁部
83	18	No.33	土師器	甕	25.4 4.3	外・鈍い橙色 内・鈍い橙色	0.5～1mm砂粒混	普通	1/8残	古代 口縁部

番号	実測	遺構名	種別	器種	法量 口径底径器高	色調		胎土	焼成	残存	備考
84	19	No.30	土師器	甕	27.8 3.5	外・明褐色	内・明褐色	1～3mm砂粒混	普通	1/8残	古代 口縁部
85	24	No.35	土師器	甕		4.0	外・鈍い橙色	内・橙色	1mm砂粒混	普通	破片 古代 口縁部
86	27	No.38 一括	土師器	甕		5.5	外・浅黄橙色	内・浅黄橙色	0.5mm砂粒混	普通	破片 古代 口縁部
87	30	No.38 一括	土師器	甕		4.3	外・鈍い橙色	内・鈍い橙色	0.5mm砂粒混	普通	破片 古代 口縁部
88	75	1 C区VI層	土師器	甕			外・鈍い橙色	内・鈍い橙色	0.5mm砂粒混	普通	破片 古代 口縁部
89	103	5 B区SP1	土師器	甕			外・鈍い褐色	内・鈍い褐色	0.5mm砂粒混	普通	1/4残 古代 口縁部
90	16	No.99	土師器	甕	30.0 3.7	外・明褐色	内・明褐色	0.5mm砂粒混	普通	破片	古代 口縁部
91	25	No.60	土師器	甕	27.2 5.7	外・鈍い橙色	内・鈍い橙色	0.5mm砂粒混	普通	1/8残	古代 口縁部
92	29	No.38 一括	土師器	甕		4.4	外・鈍い橙色	内・鈍い橙色	0.5mm砂粒混	普通	破片 古代 口縁部
93	37	No.51	土師器	甕		15.3 18.6	外・鈍い橙色	内・鈍い橙色	0.5～1mm砂粒混	普通	1/3残 古代 胴部
94	*46	4 C区VIII層	土師器	甕			外・鈍い橙色	内・鈍い橙色	1mm前後砂粒混	普通	破片 古代 頸部
95	78	0 C区VI層	土師器	甕			外・灰白色	内・灰白色	0.3mm砂粒混	普通	脚台 古代 台
96	79	0 C区VI層	土師器	甕			外・鈍い橙色	内・鈍い橙色	0.5mm砂粒混	普通	脚台 古代 台
97	4	No.79	須恵器	坏	12.7 4.0	外・明緑灰色	内・明緑灰色	1～2mm砂粒混	普通	1/2残	古墳 口縁部～底部
98	87	1 C区VI層	須恵器	坏		10.6	外・灰白色	内・灰白色	0.5～1mm砂粒混	不良	破片 古墳 口縁部
99	8	No.43	須恵器	甕		10.6	外・灰白色	内・灰色	0.5～1mm砂粒混	普通	1/4残 古墳 口縁部
100	7	No.49	須恵器	甕	21.6 7.4	外・明緑灰色	内・明緑灰色	1～3mm砂粒混	普通	1/4残	古墳 口縁部～頸部
101	6	No.48	須恵器	甕		12.9	外・明緑灰色	内・明緑灰色	0.5～1mm砂粒混	普通	破片 古墳 体部
102	*27	3 C区VI層	須恵器	碗			外・灰色	内・灰白色	0.5mm前後砂粒混	普通	破片 古代 口縁部
103	3	No.97	須恵器	盤	15.0		外・緑灰色	内・緑灰色	0.5～1mm砂粒混	普通	1/4残 古代 口縁部～底部
104	14	No.102	須恵器	甕		6.2	外・灰色	内・緑灰色	1～2mm砂粒混	普通	1/6残 古代 頸部～肩部
105	*73	5 B区VI層	須恵器	甕			外・暗灰色	内・灰色	0.3mm前後砂粒混	普通	破片 古代 体部
106	2	No.36	須恵器	坏	14.0 7.8 2.8	外・白灰色	内・白灰色	1～2mm砂粒混	普通	1/5残	古代 口縁部～底部
107	*18	0 C区V b	須恵器	坏			外・灰色	内・灰白色	0.3mm前後砂粒混	普通	破片 古代 体部～底部
108	1	No.53	須恵器	坏	11.8 7.4 3.6	外・灰褐色	内・灰色	0.5～1mm砂粒混	普通	1/3残	古代 口縁部～底部
109	100	1 C区VI層	須恵器	坏	12.9		外・灰色	内・灰色	1mm以下砂粒混	普通	1/4残 古代 口縁部～底部
110	88	0 C区V層	須恵器	坏	7.1		外・灰白色	内・灰白色	1mm以下砂粒混	良	1/4残 古代 体部～高台
111	85	5 B7 B区VII a	須恵器	蓋	11.9		外・灰色	内・灰色	0.5～1mm砂粒混	普通	1/3残 古代 蓋
112	*31	7 C区III層	須恵器	蓋			外・灰色	内・灰色	0.5mm前後砂粒混	普通	破片 古代 口縁部
113	89	5 B区VII b	須恵器	高杯			外・灰色	内・灰色	1mm以下砂粒混	普通	1/4残 古代 坏部
114	*75	5 B区VII b	須恵器	高杯			外・暗灰色	内・暗灰色	0.3mm前後砂粒混	普通	破片 古代 脚部
115	5	No.107	須恵器	壺			外・灰色	内・灰色	1～3mm砂粒混	普通	1/3残 古代 体部
116	86	3 C区VI層	須恵器	壺		7.9	外・灰色	内・灰色	微砂粒	良	1/3残 古代 底部～胴部
117	*67	6 C区	須恵器	壺			外・灰色	内・灰色	0.3mm前後砂粒混	普通	破片 古代 体部～底部
118	91	6 C区VII層	須恵器	壺	10.3		外・灰色	内・暗灰色	微砂粒	良	1/7残 古代 口縁部～頸部
119	104	5 B区SP1	須恵器	壺	12.7		外・灰色	内・灰色	1mm前後砂粒混	良通	1/4残 古代 口縁部
120	*26	4 B区VII層	須恵器	壺			外・灰色	内・灰色	0.5mm前後砂粒混	普通	破片 古代 口縁部
121	*29	3 C区VI層	須恵器	壺			外・暗灰色	内・暗灰色	1mm前後砂粒混	普通	破片 古代 口縁部
122	*30	7 B区III層	須恵器	壺			外・暗灰色	内・暗灰色	1mm前後砂粒混	普通	破片 古代 口縁部
123	*33	7 C区III層	須恵器	壺			外・暗灰色	内・灰黒色	0.5mm前後砂粒混	普通	破片 古代 口縁部
124	*3	0 C区V層	須恵器	壺			外・灰黒色	内・緑灰色	灰色	普通	破片 古代 胴部
125	*4	0 C区V層	須恵器	壺			外・濃緑色	内・灰色	灰色	普通	破片 古代 胴部

番号	実測	遺構名	種別	器種	法量 口径底径器高	色調	胎土	焼成	残存	備考
126	*53	8C区	須恵器	壺		外・鼠灰色 内・鼠灰色	0.5mm前後砂粒混	普通	破片	古代 体部
127	*52	8C区	須恵器	甗		外・茶灰色 内・茶灰色	緻密	良好	破片	古代 体部
128	101		黒色土器	碗	12.6 7.1	外・橙色 内・灰色	1mm以下砂粒混	普通	1/4残	古代~中世
129	47	No.2	黒色土器	碗	3.1 3.2	外・灰白色 内・黒色	0.5mm砂粒混	普通	1/8残	古代~中世
130	48	1C区IV層	黒色土器	碗	3.9	外・灰白色 内・黒色	0.5mm砂粒混	普通	破片	古代~中世 口縁部
131	*21	8C区VI層	内黒土器	碗		外・鈍い橙色 内・黒色	0.5mm以下砂粒混	普通	破片	古代~中世 口縁部~体部
132	46	No.6	黒色土器	碗	7.1 4.2	外・灰白色 内・黒色	微砂粒	普通	1/4残	古代~中世
133	*17	4C区VII層	黒色土器	坏		外・鈍い橙色 内・灰黒色	1mm前後砂粒混	普通	1/4残	古代~中世 体部~底部
134	90	5C区II層	瓦質土器	捏鉢		外・灰色 内・灰色	1mm以下砂粒混	普通	破片	中世 口縁部
135	*37	5C区III層	瓦質土器	捏鉢		外・灰色 内・灰白色	0.5mm前後砂粒混	普通	破片	中世 口縁部
136	*32	6C区III層	瓦質土器	摺鉢		外・暗灰色 内・暗灰色	2mm前後砂粒混	普通	破片	中世 口縁部
137	*10	6C区II層	瓦質土器	摺鉢		外・灰色 内・灰色	1mm前後砂粒混	普通	破片	中世 体部
138	*41	6C7C区III層	瓦質土器	不明		外・灰色 内・暗灰色	0.3mm前後砂粒混	普通	破片	中世 体部
139	*113	7B区VII層	瓦質土器	不明		外・灰黒色 内・灰黒色	0.3mm前後砂粒混	普通	破片	中世 体部
140	*51	6C7C区III層	陶器	壺		外・淡灰色 内・鈍い灰色	3mm前後砂粒混	普通	破片	中世 体部
141	*23	6B区VII a	陶器	水注		外・褐灰色 内・明褐灰色	0.5mm前後砂粒混	普通	破片	中世 体部
142	53	1工区IV層	青磁	碗		外・暗緑色 内・暗緑色	灰白色	普通	破片	中世 口縁部
143	94	5C区III層	青磁	碗		外・黄茶色 内・黄茶色	黄白色	普通	破片	中世 体部
144	*11	5C区II層	青磁	碗		外・暗黄緑色 内・暗黄緑色	灰色	普通	1/3残	中世 高台
145	*1	2工区II層	青磁	不明		外・暗緑色 内・暗緑色	灰色	良	破片	中世 元 口縁部
146	54	1C区IV層	青磁	碗		外・明緑色 内・緑色	灰色	普通	破片	中世 口縁部
147	55	1C区IV層	青磁	碗	4.6	外・白緑色 内・明緑色	灰白色	普通	1/8残	中世 底部
148	52	1工区IV層	白磁	碗	16.0	外・暗緑白色 内・暗緑白色	灰白色	普通	1/8残	中世 口縁部
149	95	2BC区V層	白磁	碗		外・暗白色 内・暗白色	灰白色	普通	破片	中世 口縁部
150	96	6C区II層	白磁	碗		外・黄白色 内・黄白色	白色	普通	破片	中世 口縁部
151	*25	4B区VII a	白磁	碗		外・鈍い白色 内・鈍い白色	灰白色	普通	破片	中世 口縁部
152	*8	2工区III層	白磁	碗		外・黄灰色 内・黄灰色	灰白色	普通	破片	中世 口縁部
153	*2	2区II層	白磁	碗		外・淡青白色 内・淡青白色	灰白色	良	3/4残	中世 口縁部
154	50	No.88	白磁	碗	7.1	外・灰白色 内・黄白色	灰白色	良	3/4残	中世 底部
155	*12	2工区II層	白磁	碗		外・灰白色 内・黄白色	灰白色	普通	3/4残	中世 高台
156	51	5Cベルト	白磁	皿	6.0 0.9	外・灰白色 内・緑白色	黄白色	良	3/4残	中世 底部
157	*9	2I区III層	白磁	皿		外・灰白色 内・灰白色	灰色	普通	破片	中世 底部
158	*34	7C区III層	白磁	皿	25と同一	外・灰白色 内・緑白色	黄白色	普通	破片	中世 底部
159	10	No.105	土師器	把手		外・鈍い橙色 内・鈍い橙色	0.5~1mm砂粒混	普通	破片	中世 把手
160	11	No.98	土師器	把手		外・橙色 内・橙色	0.5~1mm砂粒混	普通	破片	中世 把手
161	93	5B区VII b	土師器	把手		鈍い橙色	1mm前後砂粒混	普通	破片	中世 把手
162	*38	3C4C区IV層	羽口	羽口		外・熱変色 内・明褐色	0.5mm前後砂粒混	普通	破片	中世 口部
163	*43	6C7C区III層	石器	石鍋		外・灰黒色 内・明灰色	丁寧な磨き	普通	破片	中世 体部
164	*36	7C区III層	石器	石玉		灰黒色	自然石を加工	普通	完形	中世
165	*115		瓦質土器	不明		外・黒色 内・黒色	丁寧な磨き	普通	破片	中世 体部
166	56	No.80	青銅器	不明						用途不明(仏具力)
167	*114		中国銭	不明	直径2.5cm	元朝銭 至元通寶				

第6章 まとめ

1 本渡北小学校プール遺跡調査成果

本渡北小学校プール遺跡は、弥生時代から鎌倉時代までの各時代の遺物が出土する遺跡である。遺跡の中心は平安時代から鎌倉時代早期にかけて成立した水田遺構で、足跡や道路が確認された。広瀬川と町山口川の間位置する浜崎から丸尾ヶ丘にかけては、市内でも遺跡が集中する地域で、浜崎貝塚、本渡北小学校遺跡、浜崎遺跡、牛の首遺跡、川原田遺跡、箱の水遺跡、丸尾ヶ丘遺跡などが知られている。旧石器時代から現代に至るまで、途切れなく人々の生活が営まれており、海岸に面したこの地域の重要性と変遷を物語っている。特に本渡北小学校周辺には、縄文時代の浜崎貝塚、牛の首遺跡、中世の浜崎遺跡¹³⁾が隣接している。この地域からは石包丁が採集されており、弥生時代の遺跡の存在が指摘されていた。今回の調査でも、土器の出土があり、小学校区域内（校舎）の遺跡の存在が確実となった。また、古代を中心とした遺物と遺構の出土は、天草島内では初めての確認であり、今後の貴重な資料となろう。

2 むすび

本渡北小学校プール遺跡は、中世の水田遺構である。グラウンド周辺も同様の状態であり、一帯が遺跡であることは確実である。生活に関係する遺構については、今回の調査では確認されなかったが、学校正門駐車場側の断面において柱穴と土壇を確認しており、校舎や体育館側に生活に関連する遺構が所在すると思われる。また、浜崎遺跡は、鎌倉時代を中心とした集落と、それに伴う溝状遺構が検出されている。本遺跡は、平安時代の水田遺跡で、一帯が開発されていく過程を示している。

引用・参考文献

- 1) 山崎純男 1991『本渡市史』「第1章 原始・古代」本渡市
- 2) 平田豊弘 1996『菅原遺跡』 熊本県本渡市文化財調査報告書 第7集
- 3) 黒木雄二氏の教示による
- 4) 平田豊弘 1993『浜崎遺跡』 熊本県本渡市文化財調査報告書 第6集
- 5) 鶴田倉造氏の教示による
- 6) 山崎純男氏の教示による
- 7) 工業善通 1991『水田の考古学』 東京大学出版会
- 8) 6)と同じ
- 9) 安楽 勉他 1985『榎田遺跡』 長崎県文化財調査報告書 第76集
- 10) 西住欣一郎 1992『うてな遺跡』 熊本県文化財調査報告 第121集
- 11) 村井眞輝 1986『伊坂上原遺跡 石佛遺跡』熊本県文化財調査報告 第78集
- 12) 木山惟彦氏の教示および木山家文書による
- 13) 5)と同じ
- 14) 発掘担当者の注記

本渡北小学校プール遺跡における植物珪酸体 (プラント・オパール) 分析

株式会社 古環境研究所
杉山真二

1. はじめに

植物珪酸体は、植物の細胞内にガラスの主成分である珪酸 (SiO_2) が蓄積したものであり、植物が枯れたあとも微化石 (プラント・オパール) となって土壤中に半永久的に残っている。植物珪酸体分析は、この微化石を遺跡土壌などから検出する方法であり、イネをはじめとするイネ科栽培植物の同定および古植生・古環境の推定などに応用されている (杉山, 1987)。また、イネの消長を検討することで埋蔵水田跡の検証や探査も可能である (藤原・杉山, 1984)。ここでは、稲作跡の検証と探査を主目的として分析を行った。

2. 試料

試料は、3 C区土層断面で9点、4 C区検出面で3点の計12点が採取された。試料採取箇所を分析結果の柱状図に示す。

3. 分析法

植物珪酸体の抽出と定量は、プラント・オパール定量分析法 (藤原, 1976) をもとに、次の手順で行った。

- 1) 試料の絶乾 (105°C ・24時間)
- 2) 試料約1gを秤量、ガラスビーズ添加 (直径約 $40\ \mu\text{m}$ 、約0.02g)
※電子分析天秤により1万分の1gの精度で秤量
- 3) 電気炉灰化法による脱有機物処理
- 4) 超音波による分散 ($300\ \text{W}$ ・ $42\ \text{kHz}$ ・10分間)
- 5) 沈底法による微粒子 ($20\ \mu\text{m}$ 以下) 除去、乾燥
- 6) 封入剤 (オイキット) 中に分散、プレパラート作成
- 7) 検鏡・計数

同定は、イネ科植物の機動細胞に由来する植物珪酸体をおもな対象とし、400倍の偏光顕微鏡下で行った。計数は、ガラスビーズ個数が400以上になるまで行った。これはほぼプレパラート1枚分の精査に相当する。試料1gあたりのガラスビーズ個数に、計数された植物珪酸体とガラスビーズ個数の比率をかけて、試料1g中の植物珪酸体個数を求めた。

また、おもな分類群についてはこの値に試料の仮比重と各植物の換算係数 (機動細胞珪酸体1個あたりの植物体乾重、単位: 10^{-5}g) をかけて、単位面積で層厚1cmあたりの植物体生産量を算出した。換算係数は、イネは赤米、ヨシ属はヨシ、ウシクサ族はススキ、タケ亜科はネザサ節の値を用いた。その値は2.94、6.31、1.24、0.48である。

4. 分析結果

水田跡の検証および探査が主目的であることから、同定および定量はイネ、キビ族、ヨシ属、ウシクサ族（ススキ属など）、タケ亜科（おもにネザサ節）の主要な5分類群に限定した。これらの分類群について定量を行い、その結果を表1および図1に示した。写真図版に主要な分類群の顕微鏡写真を示す。

5. 考察

水田跡（稲作跡）の検証や探査を行う場合、一般にイネの植物珪酸体（プラント・オパール）が試料1gあたりおよそ5,000個以上と高い密度で検出された場合に、そこで稲作が行われていた可能性が高いと判断している。また、その層にイネの密度のピークが認められれば、上層から後代のものが混入した危険性は考えにくくなり、その層で稲作が行われていた可能性はより確実なものとなる。以上の判断基準にもとづいて、稲作の可能性について検討を行った。

（1）3C区土層断面（図1）

1層（試料1）から5層（試料9）までの層準について分析を行った。その結果、1層（試料1）から4層（試料6）までの各層からイネが検出された。密度は、1層上部（試料1）では3,100個/gと比較的高い値であるが、その他の層ではいずれも1,000個/g前後と低い値である。なお、奈良時代末遺物包含層の5層（試料7～9）では、イネはまったく検出されなかった。¹⁴⁾（注 遺跡の層位では、2工区水田部の2層～6層）

イネの密度が低い原因としては、1）稲作が行われていた期間が短かったこと、2）洪水などによって耕作土が流出したこと、3）稲の生産性が低かったこと、4）稲藁が耕地以外に持ち出されていたことなどが考えられるが、ここでの原因は不明である。

（2）4C区検出面

奈良時代末遺物包含層の5層検出面から採取された試料1～3について分析を行った。その結果、このうちの試料3からイネが検出されたが、密度は400個/gと微量である。これらのことから、同検出面で稲作が行われていた可能性は考えにくい。

6. まとめ

分析の結果、4層から1層にかけては少量ながらイネが検出され、継続的に稲作が行われていた可能性が認められた。なお、奈良時代末遺物包含層の5層では稲作の可能性は認められなかった。

参考文献

杉山真二（1987）遺跡調査におけるプラント・オパール分析の現状と問題点、植生史研究、第2号、P27-37

藤原宏志（1976）プラント・オパール分析法の基礎的研究（1）—数種イネ科栽培

植物の珪酸体標本と定量分析法一、考古学与自然化学、9、P15-29

藤原宏志・杉山真二（1984）プラント・オパール分析法の基礎的研究（5）—プラント・オパール分析による水田址の探査一、考古学与自然化学、17、P73-85

表1 本渡市、本渡北小学校プール遺跡の植物珪酸体（プラント・オパール）分析結果
 ●検出密度（単位：×100個/g） ※主要な分類群について計数

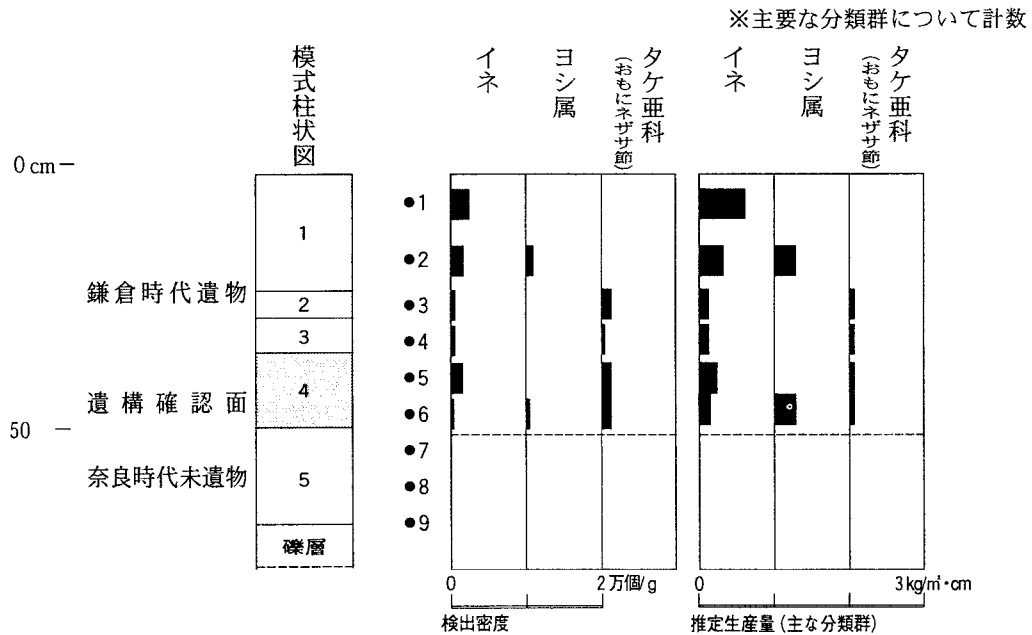
分類群 / 試料	3 C 区土層断面									4 C 区検出面		
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	1	2	3
イネ	31	15	8	7	15	7						4
ヨシ属		7				7						
ウシクサ族（ススキ属など）											7	
タケ亜科（おもにネザサ節）			15	7	15	15						4

●推定生産量（単位：kg/m²・cm）

イネ	0.92	0.44	0.23	0.22	0.45	0.22						0.12
ヨシ属		0.47				0.47						
ウシクサ族（ススキ属など）											0.09	
タケ亜科（おもにネザサ節）			0.07	0.04	0.07	0.07						0.02

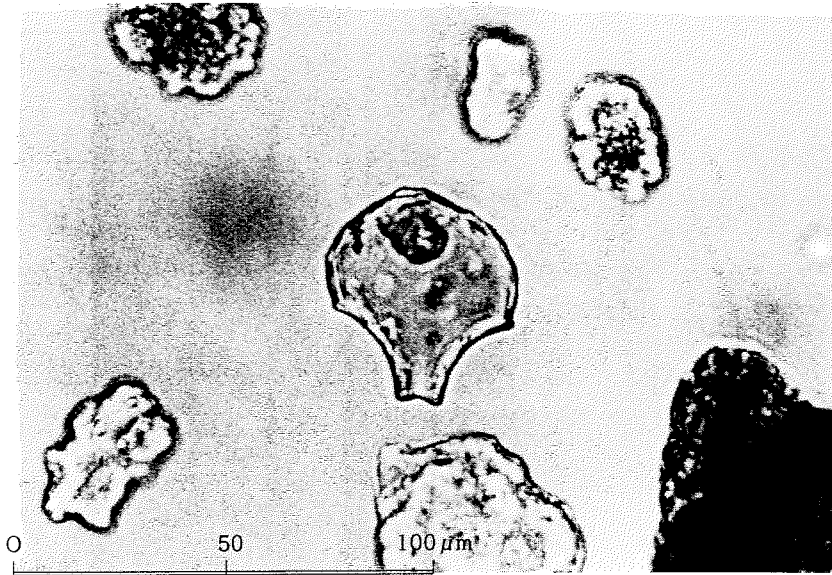
※試料の仮比重を1.0として仮定して算出。

図1 本渡北小学校プール遺跡3 C 区土層断面の植物珪酸体分析結果

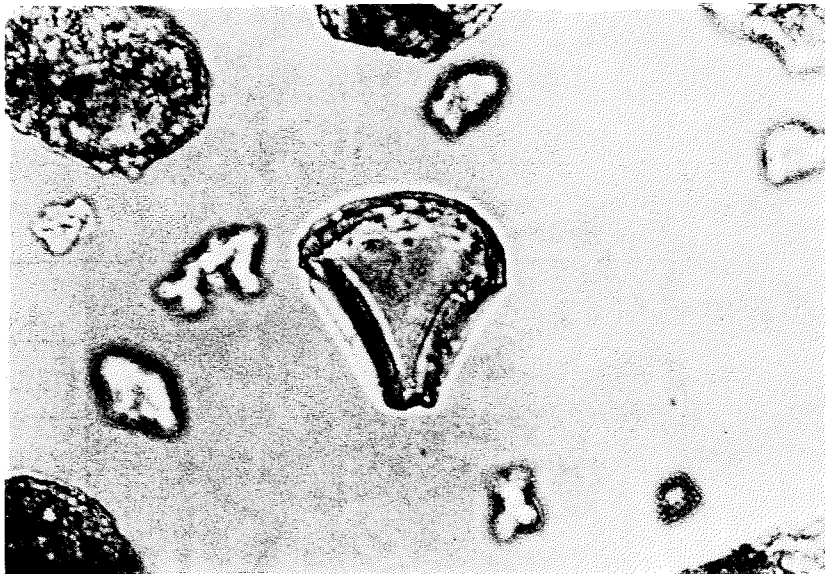


植物珪酸体の顕微鏡写真（倍率はすべて400倍）

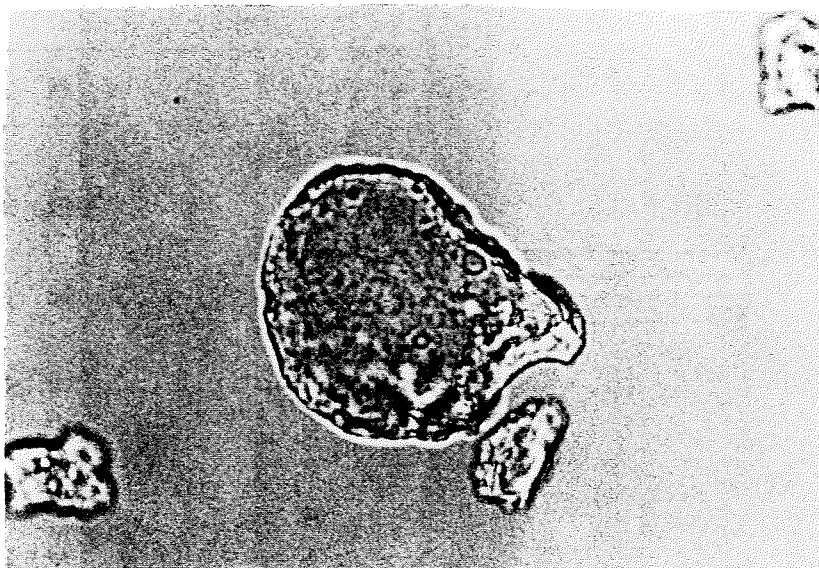
No.	分類群	地点	試料名
1	イネ	3 C 区	5
2	イネ	3 C 区	5
3	ヨシ属	3 C 区	6
4	ネザサ節型	4 C 区	3
5	ブナ科（シイ属）	4 C 区	1
6	海綿骨針	3 C 区	6



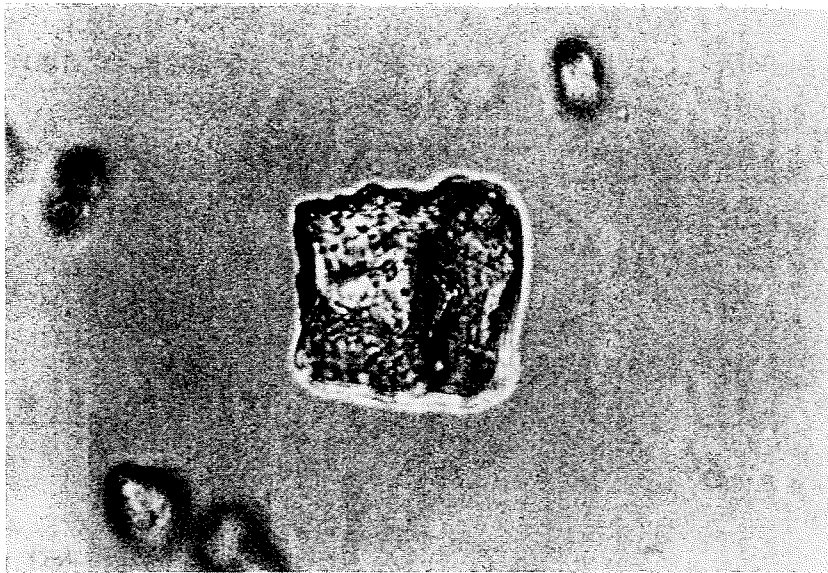
No.1 イネ 3C区



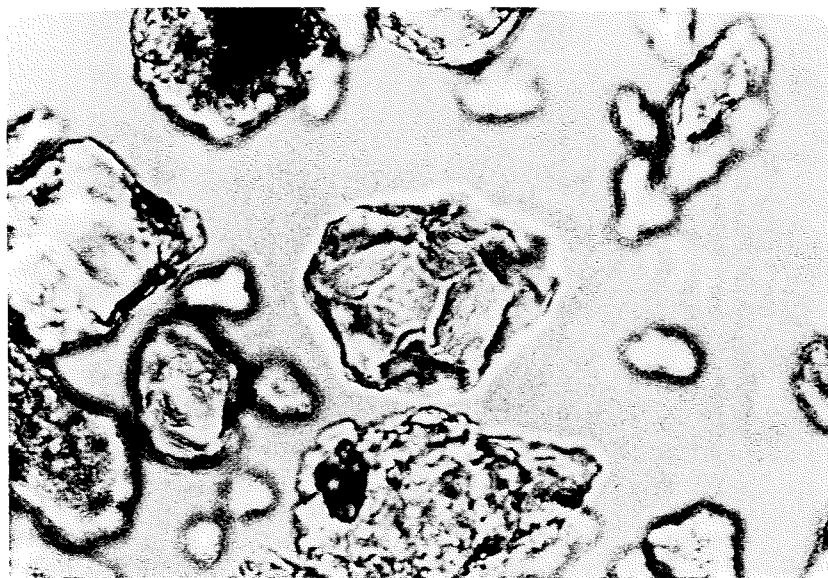
No.2 イネ 3C区



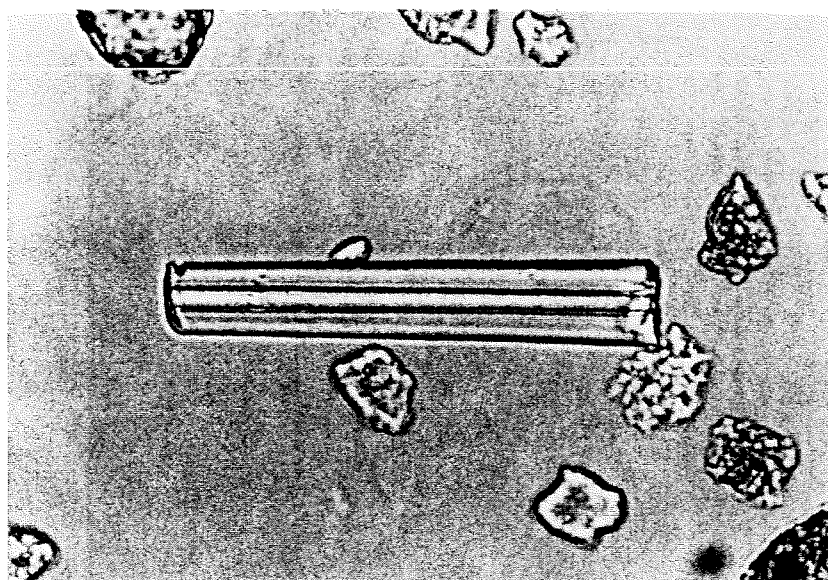
No.3 ヨシ属 3C区



No.4 ネザサ節型 4C区



No.5 ブナ科(シイ属)4C区



No.6 海綿骨針 3C区

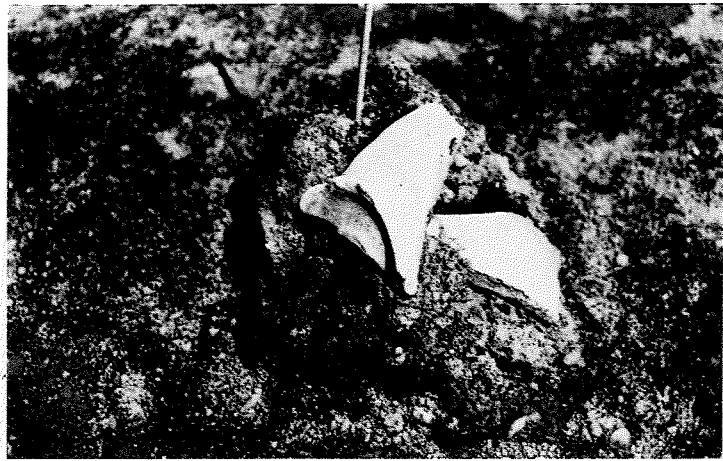
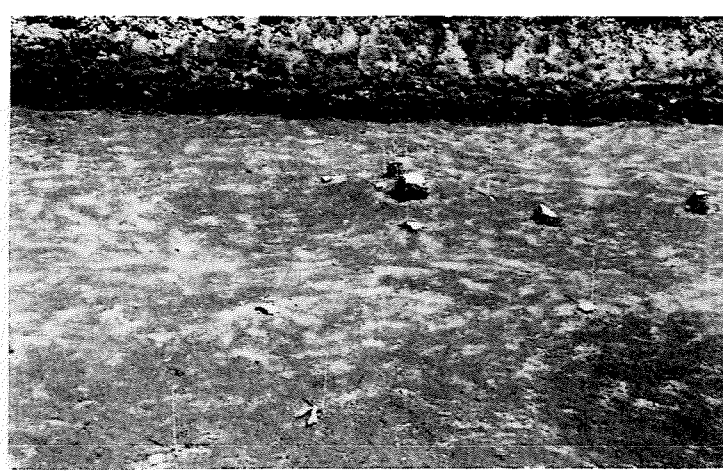
報告書抄録

ふりがな	ほんどきたしょうがっこう ぷーる いせき
書名	本渡北小学校プール遺跡
副書名	平成7年度 本渡北小学校プール改築事業に伴う 埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ名	熊本県本渡市文化財調査報告書
シリーズ番号	第8集
編著者名	平田豊弘
編集機関	熊本県本渡市教育委員会
所在地	〒863-8631 熊本県本渡市東浜町8番1号 TEL 0969-23-1111(代) 内線327 FAX 0969-24-3501
発行年月日	西暦1998年3月31日

所収遺跡名	所在地	市町村コード	調査期間	調査面積	調査原因
ほんどきたしょうがっこう 本渡北小学校 プール遺跡	ほんどしはまきまち 本渡市浜崎町 3番55号	43207	19950724 19951029	600m ²	プール工事

主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
古墳時代 平安時代 鎌倉時代	水田遺構・道路遺構	土師器 須恵器	

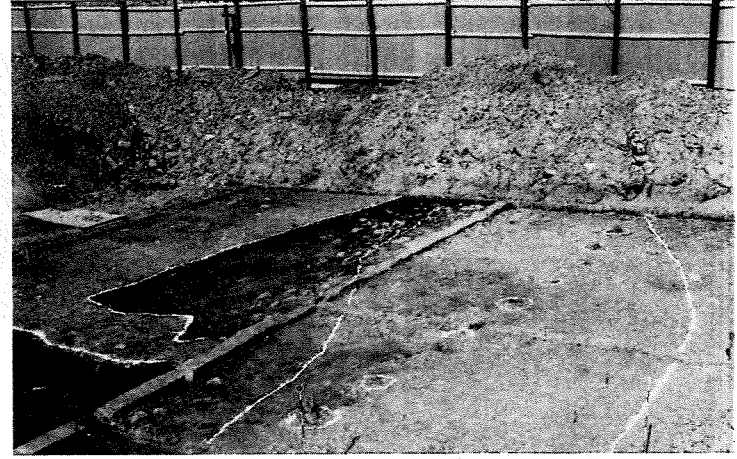
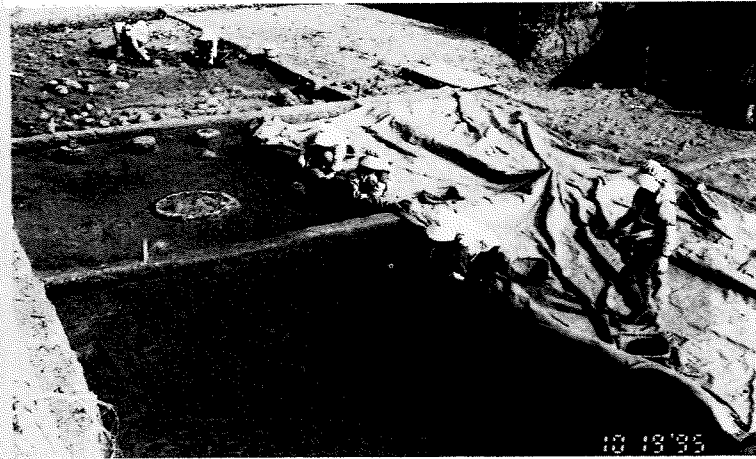
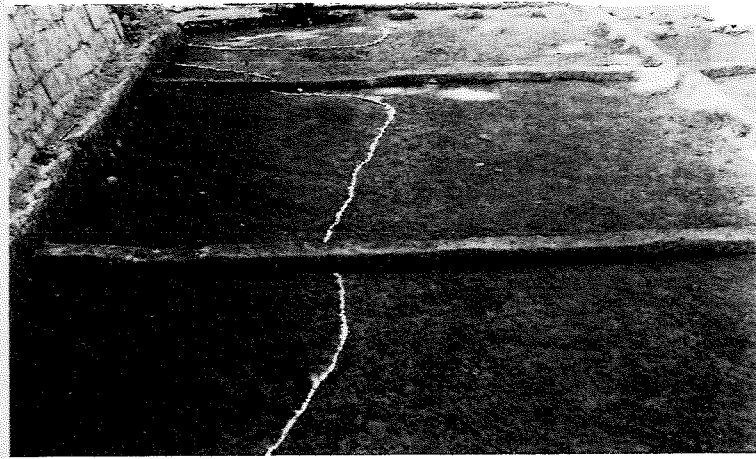
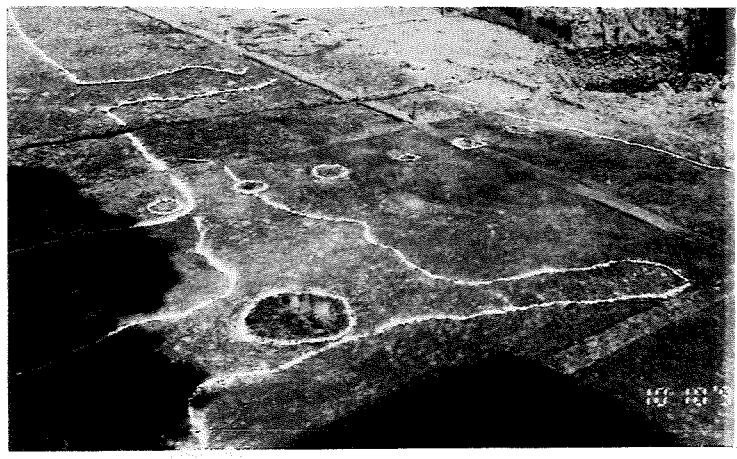
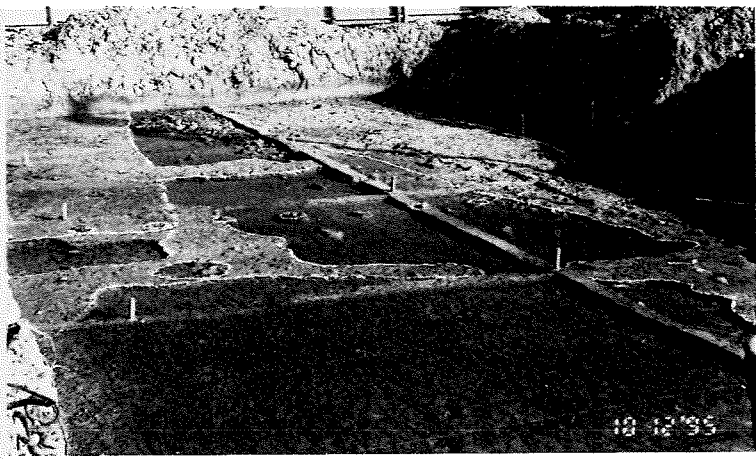
版 图



第1図版

- ① 1工区SKI調査状況
- ② 1工区SKI遺物出土状況 No.7
- ③ 1工区SKI・SXI完掘状況
- ④ 1工区発掘作業状況

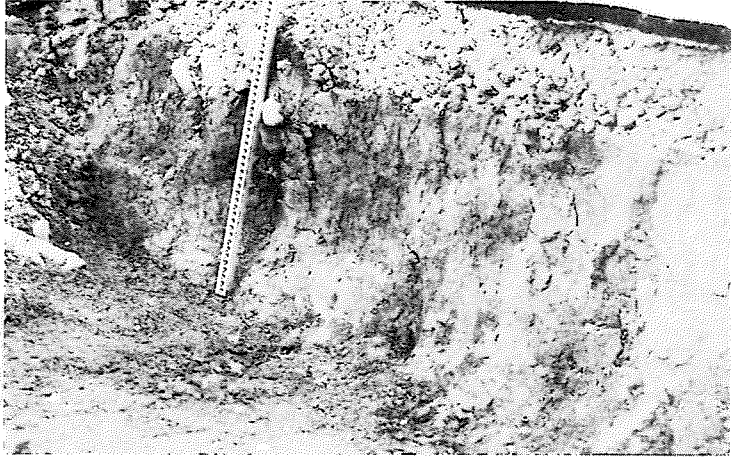
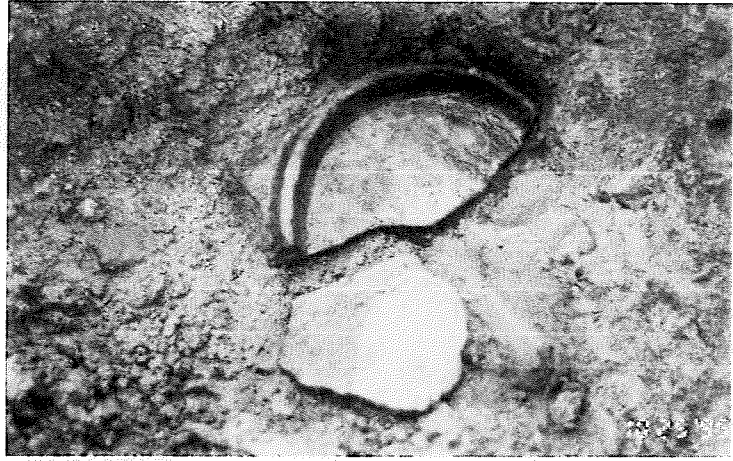
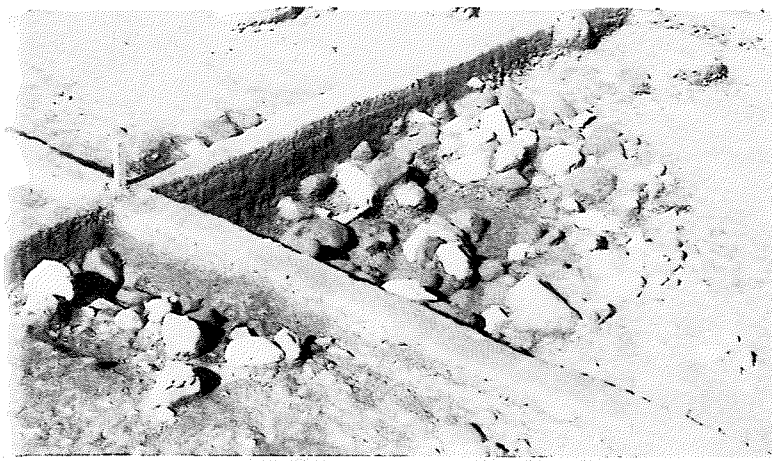
- ⑤ 1工区古代水田遺構
- ⑥ 1工区古代水田より遺物出土状況 No.12
- ⑦ 1工区古代水田下層状況
- ⑧ 1工区古代水田完掘状況



第2図版

- ① 2工区遺構検出状況
- ② 2工区古代水田検出状況
- ③ 2工区古代水田発掘作業状況
- ④ 2工区古代水田下層発掘状況

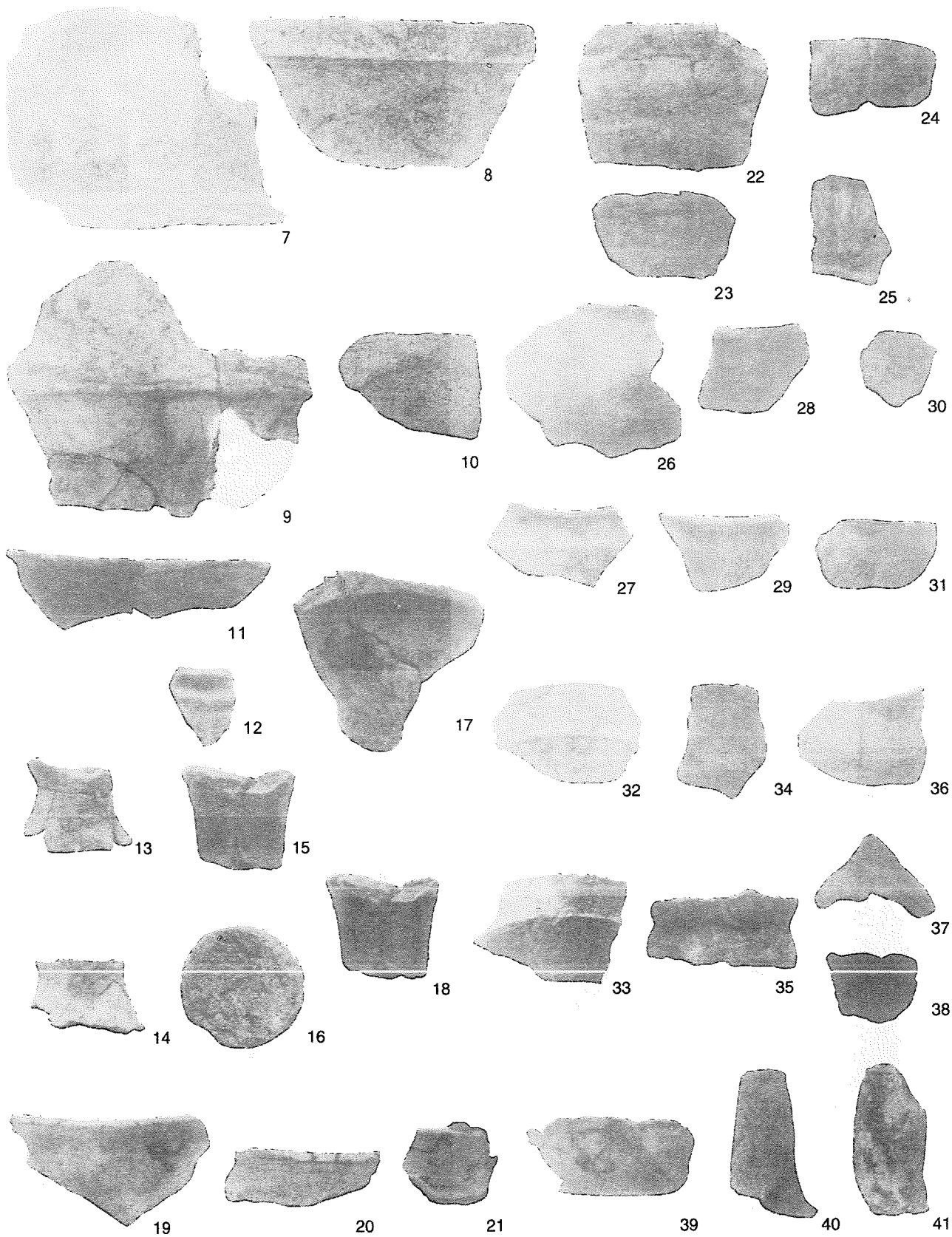
- ⑤ 2工区古代水田遺構
- ⑥ 2工区古代水田遺構
- ⑦ 2工区古代水田道路遺構
- ⑧ 2工区古代水田完掘状況



第3図版

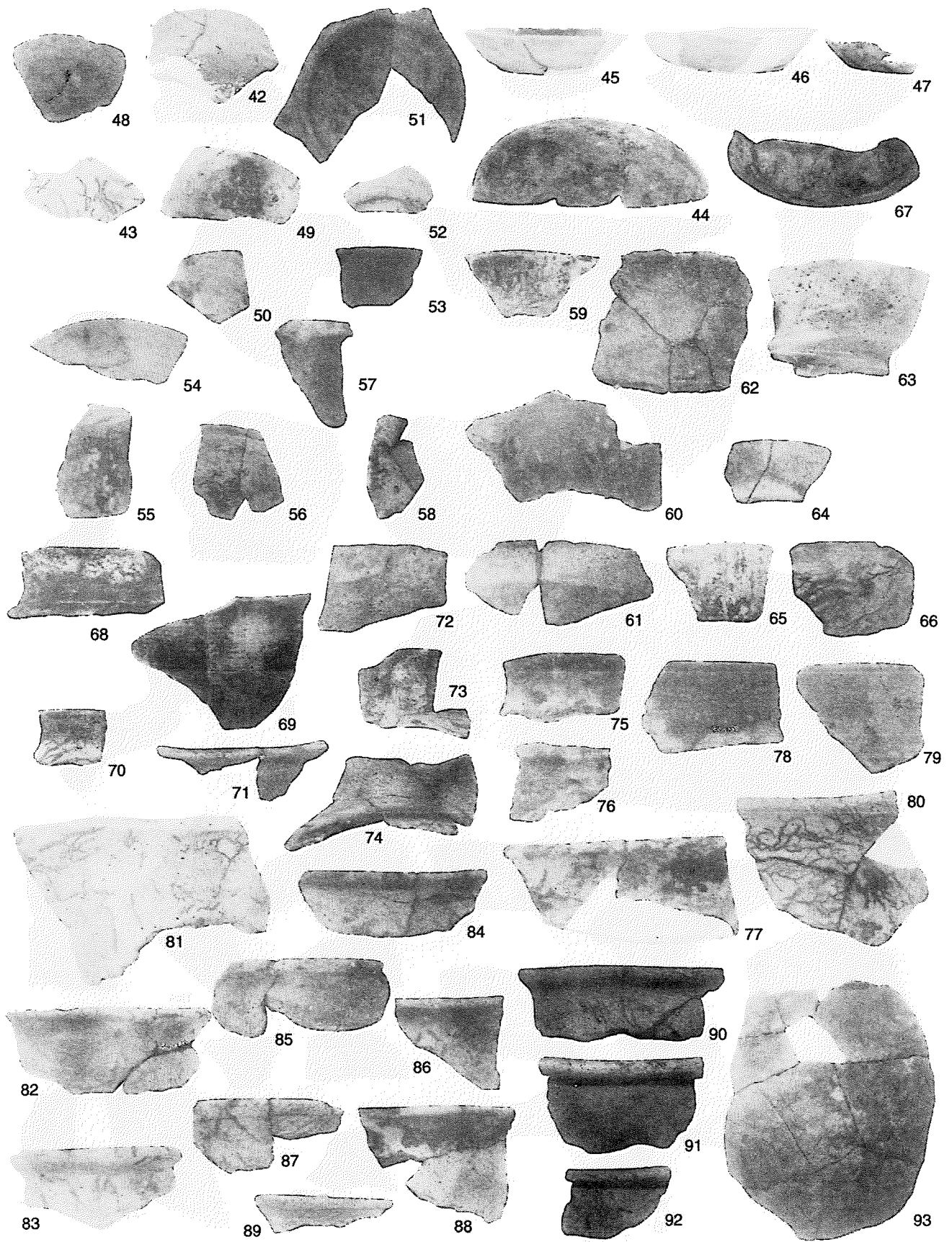
- ①2工区SX2 検出状況
- ②2工区SX2 完掘状況
- ③2工区SX3 検出状況
- ④2工区SX3 流木出土状況

- ⑤2工区遺物出土状況 No 90
- ⑥2区遺物出土状況 No 104
- ⑦2工区遺物出土状況 No 22
- ⑧2工区遺物出土状況 No 51
- ⑨本渡北小学校正門駐車場土層

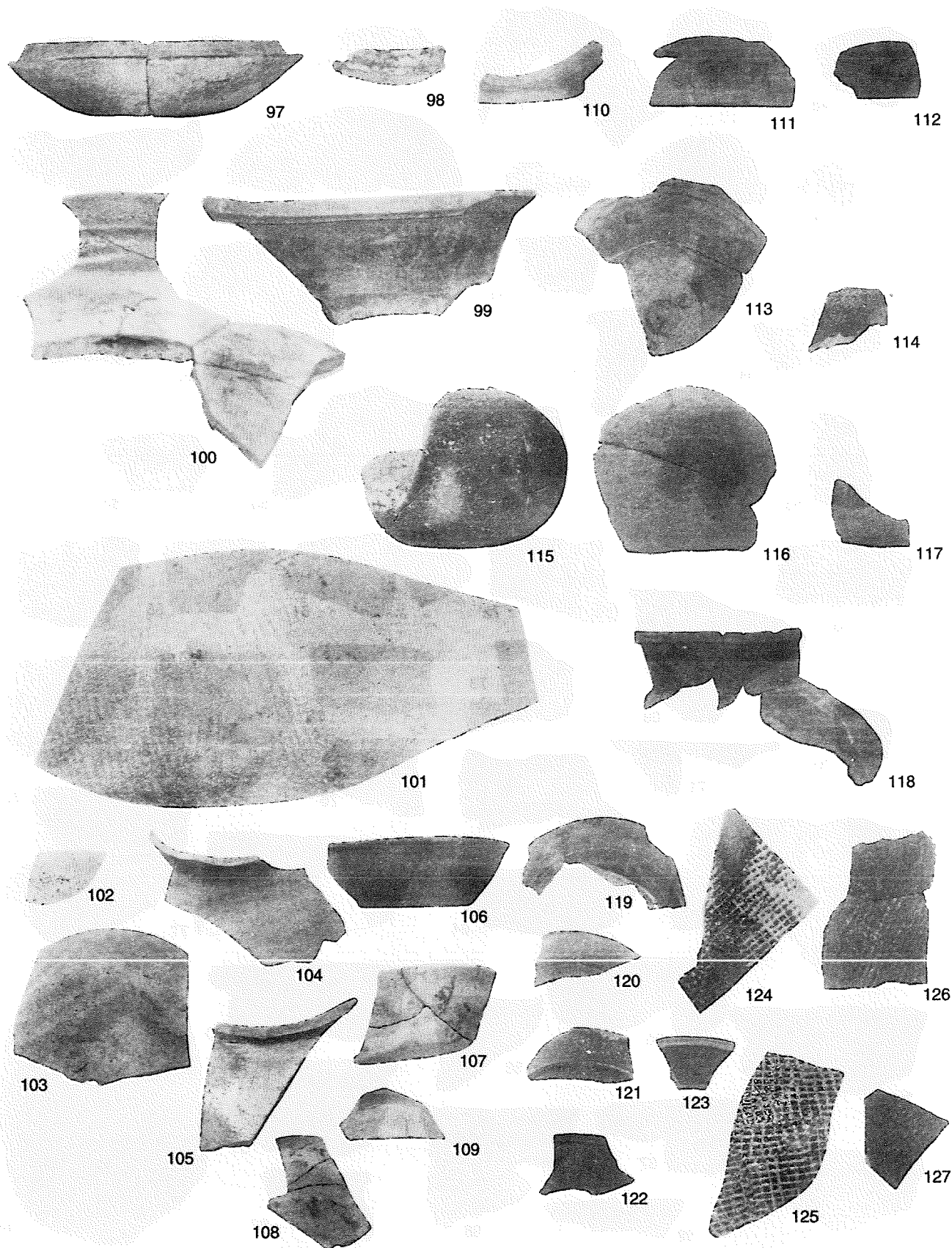


第4図版

- | | |
|--------|----------------------------------|
| 弥生式土器 | 7.8.9.10.11.12.13.14.15.16.17.18 |
| 土師器 | 弥生時代の土師器 19.20.21 |
| | 古墳時代の土師器 |
| - 甕 - | 22.23.24.25.26.27.28.29.30.31 |
| - 壺 - | 32.33.34.35.36.37.38 |
| - 高杯 - | 39.40.41 |



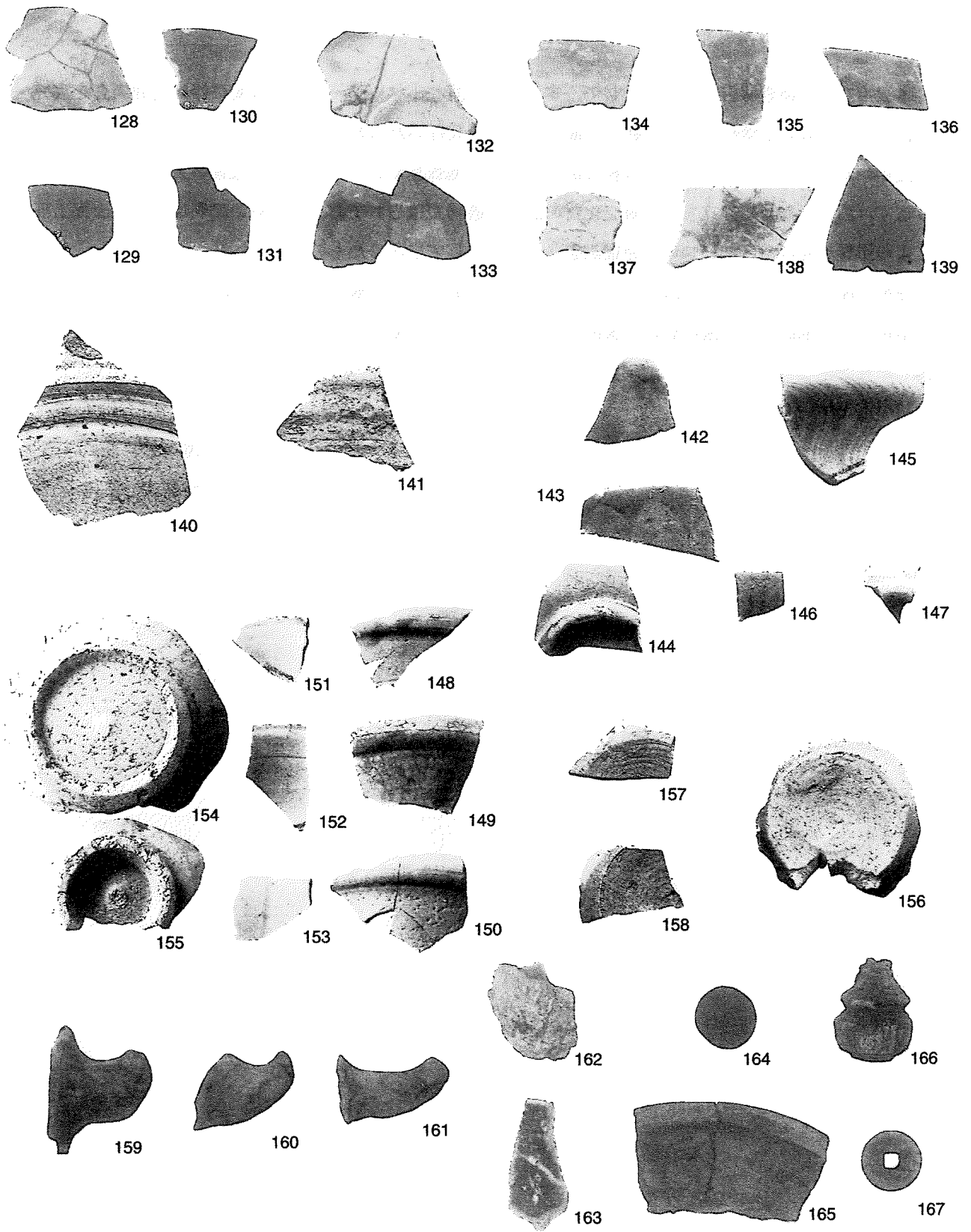
第5図版 土師器 古代(奈良・平安)の土師器
 - 碗・皿・蓋 - 42.43.44
 - 杯 - 45.46.47.48.49.50.51.52.53
 - 高杯 - 54.55.56.57.58
 - 壺 - 59.60.61.62.63.64.65.66.67
 - 甕 - 68.69.70.71.72.73.74.75.76.77.78.79.80
 81.82.83.84.85.86.87.88.89.90.91.92.93



第6図版

須恵器 古墳時代の須恵器
古代の須恵器

- 杯 - 97.98
- 碗・盤 - 101.103
- 蓋 - 111.112
- 壺 - 115.116.117.118.119.120.121.122.123.124.125.126.127
- 甕 - 99.100.101
- 甕 - 104.105
- 高杯 - 113.114
- 坏 - 106.107.108.109.110



第7図版

黒色土器・瓦質土器 - 黒色土器 - 128.129.130.131.132.133 - 瓦質土器 - 134.135.136.137.138.139
 陶器 140.141
 磁器 - 青磁 - 142.143.144.145.146.147 - 白磁 - 148.149.150.151.152.153.154.155.156.157.158
 その他 159.160.161.162.163.164.165.166.167

あ と が き

本渡市文化財調査報告書第8集として、本渡市立本渡北小学校プール改築事業に伴い発掘調査を実施しました「本渡北小学校プール遺跡」の調査報告書を発行いたします。

近年、本渡市におきましても大規模な開発事業や土地改良事業、区画整理・造成事業が実施されております。開発行為等に先立ち、埋蔵文化財の調査は義務づけられており、今回の調査はプール改築工事により影響を受ける区域について発掘調査し、記録としてまとめたものです。

今後、開発と文化財保存の調整につきましては、関係各位の一層のご理解をお願いします。

最後に、発掘調査から遺物整理、実測、報告書作成と、ご協力とご指導を賜りました多くの方々に感謝とお礼を申し上げます。

熊本県本渡市教育委員会
文化生涯学習課 文化係

本渡市文化財調査報告書 第8集

本渡北小学校プール遺跡調査報告書

(平成7年度 本渡北小学校プール改築事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書)

発行/平成10年3月31日

発行者/熊本県本渡市教育委員会

〒863-8631 熊本県本渡市東浜町8番1号

☎ (0969) 23-1111

印刷/イナガキ印刷

